



二瀬ダム



吉見町・鴻巣市付近



彩湖



荒川放水路

荒川読本



共編

埼玉大学／立正大学名誉教授 元木 靖
国土交通省荒川上流河川事務所

荒川の流域にくらすみなさんに

荒川は、埼玉県の「母なる川」とよばれています。上流には秩父盆地をもち、山地部をぬけ平野部へでてからは県の中央部をうるおし、東京湾へと注いでいます。日本の川は、山がちな国土（列島）に発達しているため、大陸の川にくらべると、短く、急流をなして流れています。荒川の場合もふだんは静かですが、降水があると増水し、激しい流れに変わります。「荒川」という名前がこの性格をよく表しています。

川の性格はわたしたちの生活の変化によっても変わります。とくに荒川の下流には巨大都市「東京」がひかえています。埼玉県側でも都市化がすすみ、農業が中心であったころとくらべて、川の役割や特徴もずいぶん変わってきました。埼玉県にとって大切な荒川は、また日本の川のことを理解する上にもおおきな意味をもっていると言ってよいでしょう。

この本は、このような荒川と、その流域の自然や人々の生活について、鳥が空から地上を見おろすような立場で、広い視野からながめてみようという目的をもって作られました。川は、人間のからだであれば血管にあたる大切な部分です。わたしたちの生活の舞台である大地の環境を良くし、守っていくためにも川をいろいろな目で理解してみるのが大切であると思います。小学生や中学生のみなさんに、いろいろな機会にこの本をひらいていただき、新しいことに気づいてもらえるように期待しています。

埼玉大学／立正大学名誉教授 元木 靖

荒川読本の改訂にあたって

この本は、荒川流域の小学生に、川が果たす役割やそこに暮らす人々の営みなどを学習し、河川に対する理解を深めて頂くことを目的に、副読本として平成6年に初版を発行し、流域内各小学校へ配布していたものです。

今回、平成30年に荒川上流部改修開始から100周年を迎えることを機会に、荒川読本の見直しを行いました。

■改訂のポイント

- ・以前の荒川読本の内容を基本としつつ、状況が変わっている内容や古くなったデータを更新しました。
- ・冊子だけではなく電子データとして、内容ごとに完結した形となるよう編集しました。それにより、必要な部分を先生に選んでお使い頂けます。

荒川上流河川事務所

荒川読本 もくじ

ページ	見出し	小見出し
1～2	荒川は埼玉県のどのあたりを流れているんだろう？	地図で見る荒川
3～4	水の旅、甲武信ヶ岳から東京湾へ173km	荒川を上・中・下流に分けてみよう ・荒川の源流点
5～6	荒ぶる川“荒川”から暮らしを守るために	◦洪水を防止すべく行われた歴史的な二大工事 ・伊奈一族による荒川大改修 ・人工の川、荒川放水路 ◦むかしと今の荒川を比べてみると…
7～8	荒川を関東の他の川とくらべてみると	荒川の特ちょうがわかるかな？ ・荒川と利根川の川はぼのちがい
9～10	深い谷間をいきおいよく流れる上流	上流のようす ・上流部に盆地をつくる日本の川
11～12	運ばれてきた石や砂がつもる中流	中流のようす ・山あいの出口にひろがるせん状地
13～14	豊かに水が流れる下流	下流のようす ・人間がつくった河口部
15～16	荒川にはどんな生きものがいるんだろう？	上・中・下流でちがう生きものの種類
17～18	荒川の水はどこからきてどこへ行くのかな？	◦川の水はじゅんかんする水の一部 ◦水をたくわえる上流の森林
19～20	降水量に左右されやすい荒川の水量	荒川流域の気候と川の水量 ・変化する川の水位 ・かつ水と洪水 (川に水が無くなるかつ水/河川敷いっぱいになる洪水)
21～22	生活の変化を映しだす荒川の水質	◦きれいになりつつある荒川の水 ◦生息する魚の種類で水質を調べよう
23～24	むかしの荒川の水害と、暮らしを守る人々の知恵	堤防で囲まれた人の住むところ ・むかしの堤防(かすみ堤/大囲堤)
25～26	いまの堤防は、いつごろつくられたんだろう？	◦広い川はぼと横堤 ・堤防の建設/横堤の建設 ◦明治以降、最大のひ害を出した明治43年の洪水
27～28	荒川につくられた治水施設	川を安全にするさまざまな施設 ・堤防 ・護岸 ・水門・はい水機場 ・ダム
29～30	水害に備えて、流域ではどのように連絡しあっているのかな？	◦観測と連絡 ◦住民が活やくする水防団 ◦川を見守る施設
31～32	荒川の水を、むかしはどのように利用されていたのかな？	◦埼玉県を稲作地帯にした堰と水路 ◦あたらしい六堰
33～34	物資を運ぶ交通路として利用されていた荒川	◦さかんに物資が行きかった荒川 ◦舟運のようす
35～36	いま荒川の水は飲み水にもなっているんだ	荒川の水を生活用水として
37～38	ダムや調節池はなぜあるの？	◦川の流れを安定させ、水害や水不足を防ぐダムや調節池 ◦多目的ダム建設のきっかけとなった昭和22年 カスリーン台風による水害 ◦ダムの統合管理
39～40	首都圏を洪水から守る調節池	広い河川敷につくられた荒川第一調節池
41～42	荒川を大切な自然のかなめに…	豊かな自然が残る荒川
43～44	荒川をみんなが集まる水辺に…	広い河川敷、水辺はみんなの快適空間
45～46	荒川とともに歩み、さいたまの今の発展を築いた偉人たち	荒川にまつわる偉人たちの足跡
47～48	行ってみよう！川の学習施設	川のことが学習できる県内のさまざまな施設
49～50	◦川をもっと知るために ◦インターネットで荒川博士になろう！	◦博物館や資料館は新たな発見への入り口 ◦いろいろな荒川情報が満載のホームページ

水の旅、^{こぶしがたけ}甲武信ヶ岳から^{わん}東京湾へ173km

荒川を上・中・下流に分けてみよう

川は、流れている場所の違いにより、上流・中流・下流に分けられます。川が始まる山あいのあたりは上流、山を出てからの平地は中流、さらに海に続くところは下流になります。

この資料では、荒川が流れ始める^{こぶしが}甲武信ヶ^{たけ}岳から、奥秩父の険しい山地の山あいを流れて、平坦な秩父盆地^{へいたん ちちぶ ぼんち}までの区間を上流、川のけい斜がゆるやかになる寄居町から、入間川が合流した下流の秋ヶ瀬取水堰あたりまでの区間を中流、秋ヶ瀬取水堰あたりから、海に流れこむ河口^{かこう}までの区間を下流にわけて、荒川のことを紹介しています。

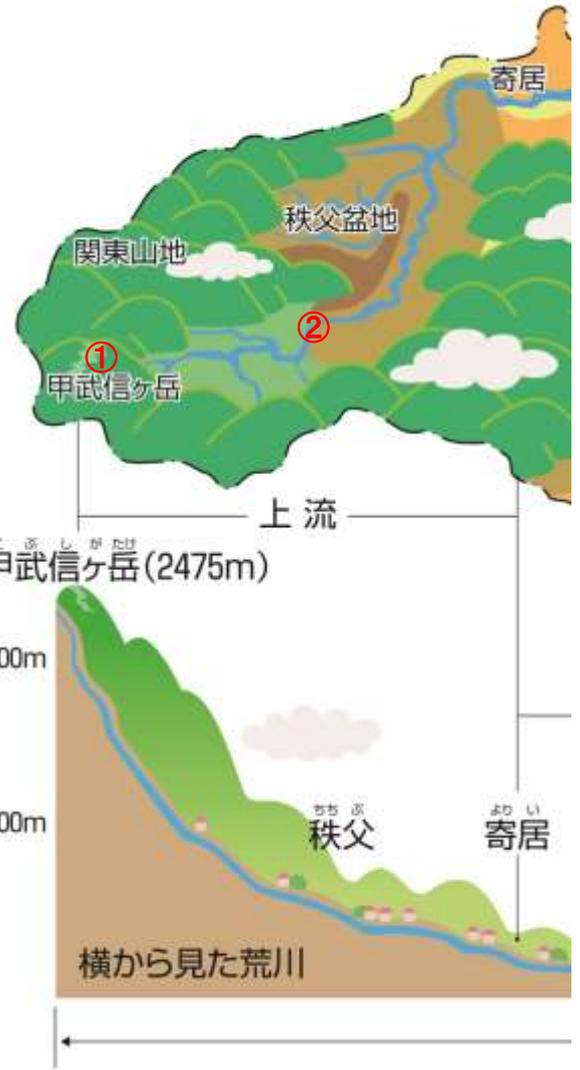


①荒川源流点近くのようす（標高約2200m）

荒川の源流点

甲武信ヶ岳山頂近くのコケのむした岩のすき間からしみ出た水が、荒川の最初の一滴となり、川の流れとなります。川の流れの始まりを源流点といいます。

※川の長さ173kmは、源流点より少し下の「荒川起点」からの長さです。実際はもう数kmあります。



河口からの距離と川はば



荒ぶる川“^{あら}荒川”から暮らしを守るために

洪水を防止すべく行われた歴史的な二大工事

美しい自然と水に恵まれた荒川は、豊かな漁獲と舟での運送業などにより、むかしから流域に住む人々に大きな繁栄をもたらしてきました。しかしその反面、荒川は頻繁に洪水を起こすことでも有名です。そのため先人たちは、さまざまな水害対策に取り組んできました。



安政六年(1859)の洪水の図(坂戸市)
画像提供: 林茂美氏

伊奈一族による荒川大改修

荒川の氾濫の記録は古いもので平安時代に書かれた文書が残っています。そんなむかしから人々は洪水の被害に悩まされていたのです。

そこで江戸時代の1629年に計画されたのが、荒川の流れを変えてしまおうという大改修。これは熊谷市久下付近でそれまでの流れを止めてあたらしい河道を作り、人間川支流へと合流させるという大がかりな工事でした。荒川の流れを埼玉平野の東部からそらすことで、今まで頻繁におこっていた洪水をなくし、水田地帯を守るとともに新田開発も促進。さらには木材を運ぶ舟の道を確保するという目的もあったようです。

この工事を指揮したのが、伊奈備前守忠

次の息子半十郎忠治という人物で、父親の忠次も荒川に堤防を築いた人として知られています。荒ぶる川の水害対策に親子二代で立ち向かった伊奈一族の名前は荒川の歴史に深い尊敬とともに今ものこっています。



伊奈忠治の像

人工の川、荒川放水路

明治43年8月に発生した洪水の被害は甚大で、堤防を越えて街に水が大量にあふれ出たといひます。

このような大洪水の被害を二度と繰り返さないために計画されたのが、人工の川“荒川放水路”。上流から流れてくる荒川の水を、隅田川と放水路にわけることで、隅田川に集中していた洪水を分散させました。



▲着工から19年、昭和5年に完成した荒川放水路

むかしと今の荒川を比べてみると…

現在の荒川は、熊谷市の西方からJR高崎線の西側を流れ、東京湾に流れ込んでいます。しかし、大むかしからこの流れだったというわけではありません。

江戸時代以前



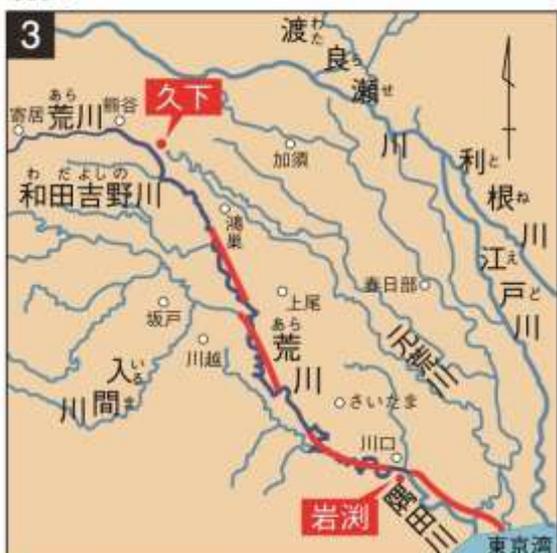
江戸時代より前の荒川は、東京湾に流れ込んでいた利根川の支川で、現在の元荒川の流れでした。

江戸時代～大正時代



江戸時代になると、荒川は熊谷市久下あたりから新しい河道が作られ、和田吉野川と合わせて入間川とつながりました。

現在



荒川放水路が作られ、それまでの荒川が隅田川、そして新しくできた放水路が荒川とよばれるようになりました。

あら 荒川を関東の他の川とくらべてみると

荒川の特ちょうがわかるかな？

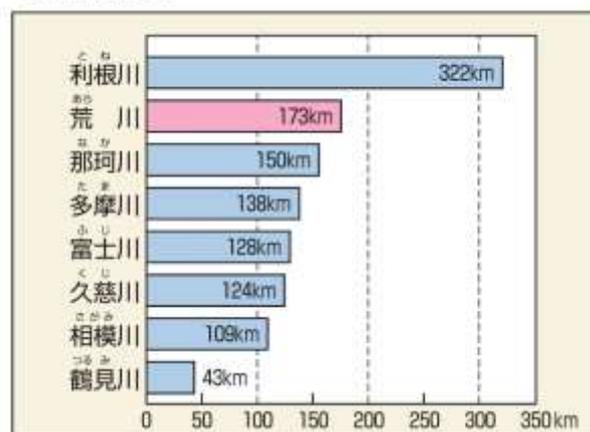
関東平野をうるおすおもな川は、利根川、荒川、那珂川、多摩川、富士川、久慈川、相模川、鶴見川の8つの川です。

この8つの川のなかで、もっとも大きいのは、利根川で、流域面積は16763km²と日本最大をほこっています。

荒川は、利根川とくらべて見ると、川の長さは173kmで約半分、流域面積は2940km²で約6分の1の大きさの川ということになります。ところが、右のページの図のように川はばでくらべてみると、利根川よりも広

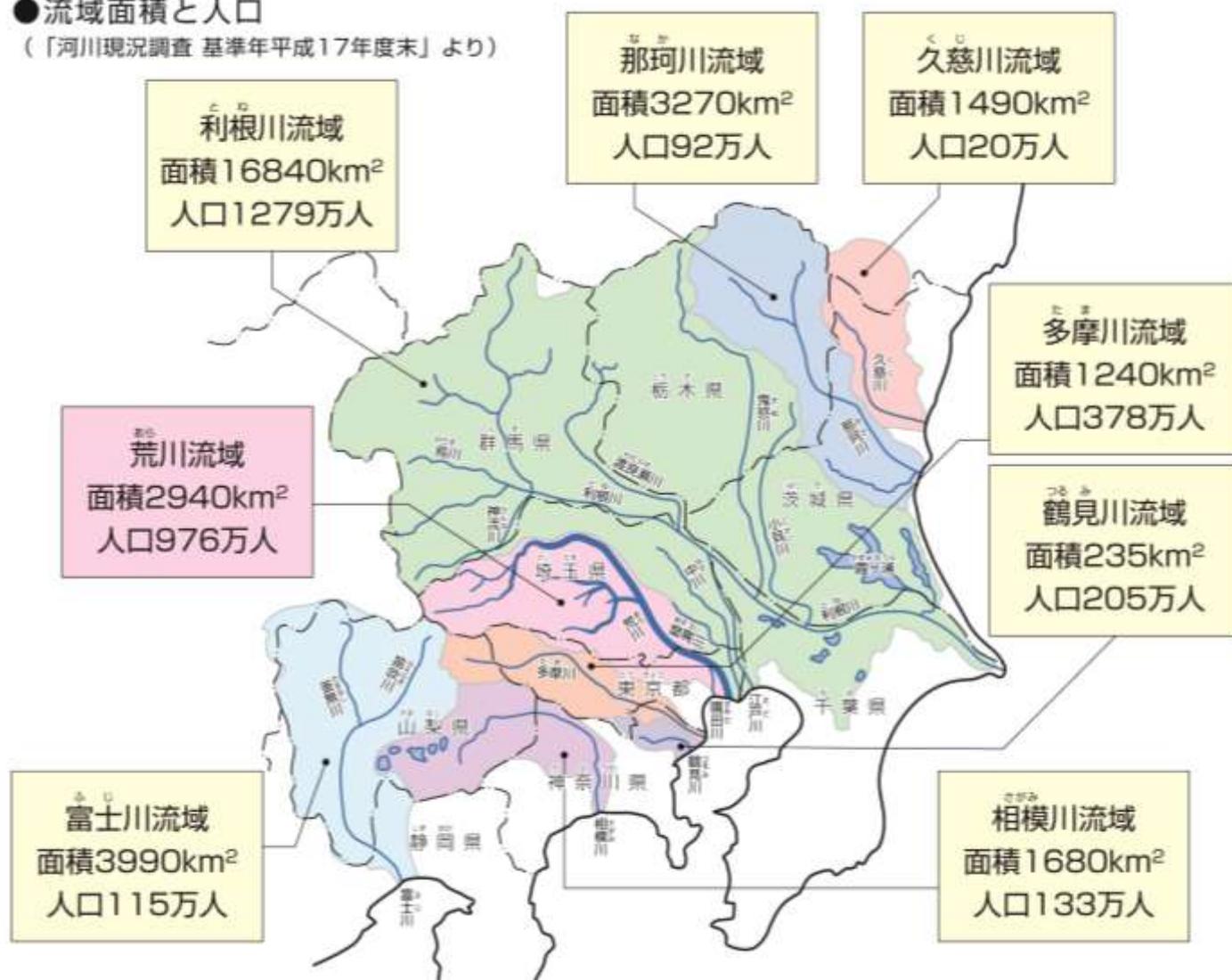
い部分があり、これは荒川の特ちょうと言ってよいでしょう。

● 川の長さ



● 流域面積と人口

(「河川現況調査 基準年平成17年度末」より)



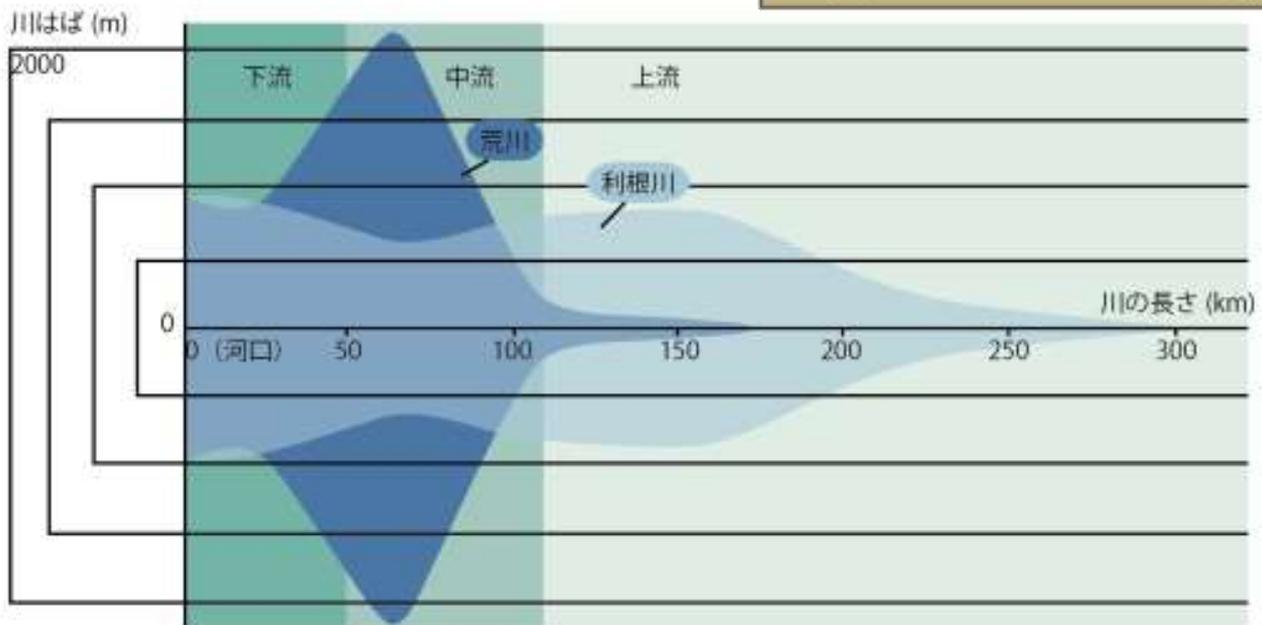
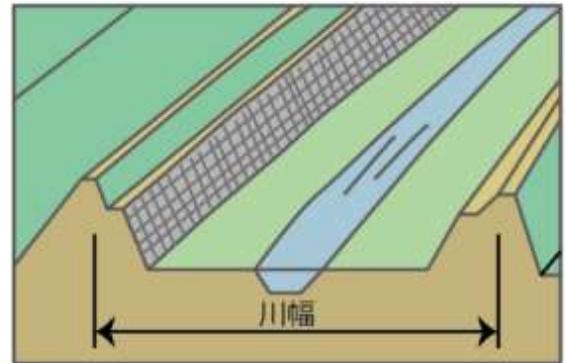
荒川の流域面積は、それほど
広くないのに、たくさんの方が
住んでいるんだね。

利根川より、川の長さは
短いのに、中流部の川は
ばは、とても広いのね。



荒川と利根川の川はばのちがい

二つの川の川はばを簡単に示した図を見ると、その
ちがいがよくわかります。



川の豆知識 川の長さくらべ (「理科年表」より)

●日本の川ベスト5

	川の名前	長さ	河口の県名
1	信濃川	367km	新潟県
2	利根川	322km	茨城県・千葉県
3	石狩川	268km	北海道
4	天塩川	256km	北海道
5	北上川	249km	宮城県
15	荒川	173km	東京都

●世界の川ベスト5

	川の名前	長さ	河口の県名
1	ナイル川	6690km	エジプト
2	アマゾン川	6300km	ブラジル
3	長江	6300km	中国
4	ミシシッピ川	6210km	アメリカ
5	黄河	5460km	中国

深い谷間をいきおいよく流れる上流

上流のようす

川が山地のあいだを流れる上流部では、川のかたむきが急で、流れが速く、川底や岸をけずりにとって、深いVの字のような谷をつくりま^{かわら}す。川はばはせまく、川原もほとんどなく、大きな岩や石がころがっています。

川の水が川底や岸をけずりをとることを、しん食作用といいます。



①上流の様子（岩がごっごつしている）

荒川上流部の地形



道路
鉄道
荒川の流域範囲



②秩父盆地を流れる荒川



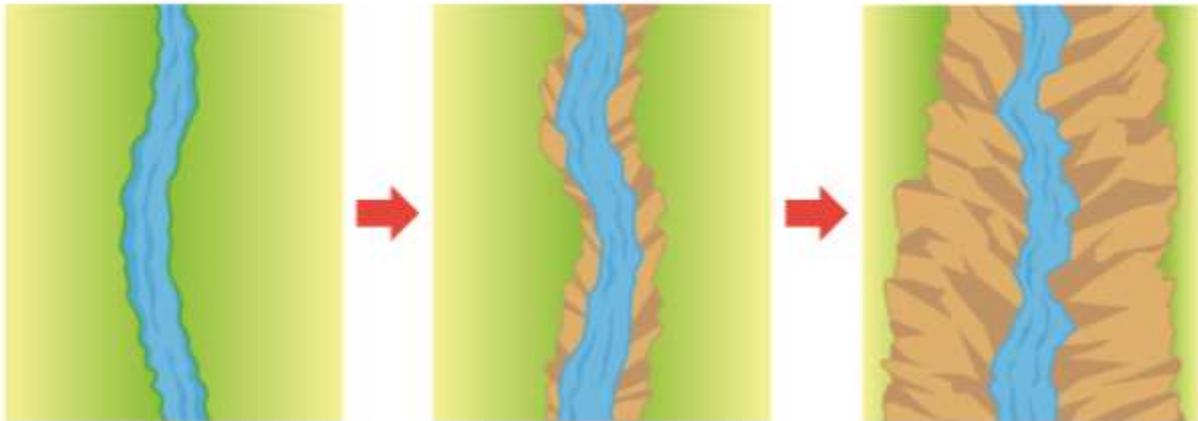
上・中・下流で、地形はどうちがうのかな？



上流部に盆地をつくる日本の川

山地の間にできた平地を盆地といいます。この盆地が上流部によくあるのが、日本の川の特ちょうの一つになっていて、荒川も秩父盆地の中を流れています。

川の豆知識 川がV字谷をつくるようす



上流部では、かたむきが急で、流れが速く、川底や岸をさかんにけずります。

けずられた川底がだんだん深くなるにつれて、川岸にある岩がくずれてきます。

そして、両岸ががけのようになり、川はばのせまい河道ができます。

運ばれてきた石や砂^{すな}がつもる中流

中流のようす

川が山地をぬけた平野から始まる中流部では、川のかたむきはゆるやかになり、水のいきおいも弱まります。そのため、上流から運んできた石や砂^{すな}を運びきれずに、つもらせます。

川の水が石や砂を運ぶことを運搬作用、石や砂をつもらせることをたい積^{せき}作用といいます。

中流部の断面図

川は、人の住んでいる地面より低いところを流れています。



荒川中流部の地形



②荒川せん状地 (寄居町付近)



川が曲がりくねっているよう
すは蛇ににているので蛇行
とよばれています。



山あいの出口にひろがるせん状地

山あいの出口は、下流にむかって扇をひろげたように石や砂がたい積するのでせん状地とよばれています。

川の豆知識 曲がりくねったむかしの流路が残る中流部

中・下流部の川が曲がりくねった場所は、大雨で水のいきおいが強くなると、むかしはよく水があふれることがありました。いまは、そのような場所は、川を直線的になおしたので、曲がりくねっていた場所は、池として残されることになりました。



池になっているむかしの荒川のあと(川島町)

豊かに水が流れる下流

下流のようす

下流部は、中流部よりもかたむきが大変にゆるやかで、流れもおそく、中流部から運んできた土や砂すなをつもらせ平野をつくります。

また、下流部では、支川しせんの水や雨水が加わるため、川の水が多くなり、川の流路りゅうろが固定こていされています。

下流部の断面図

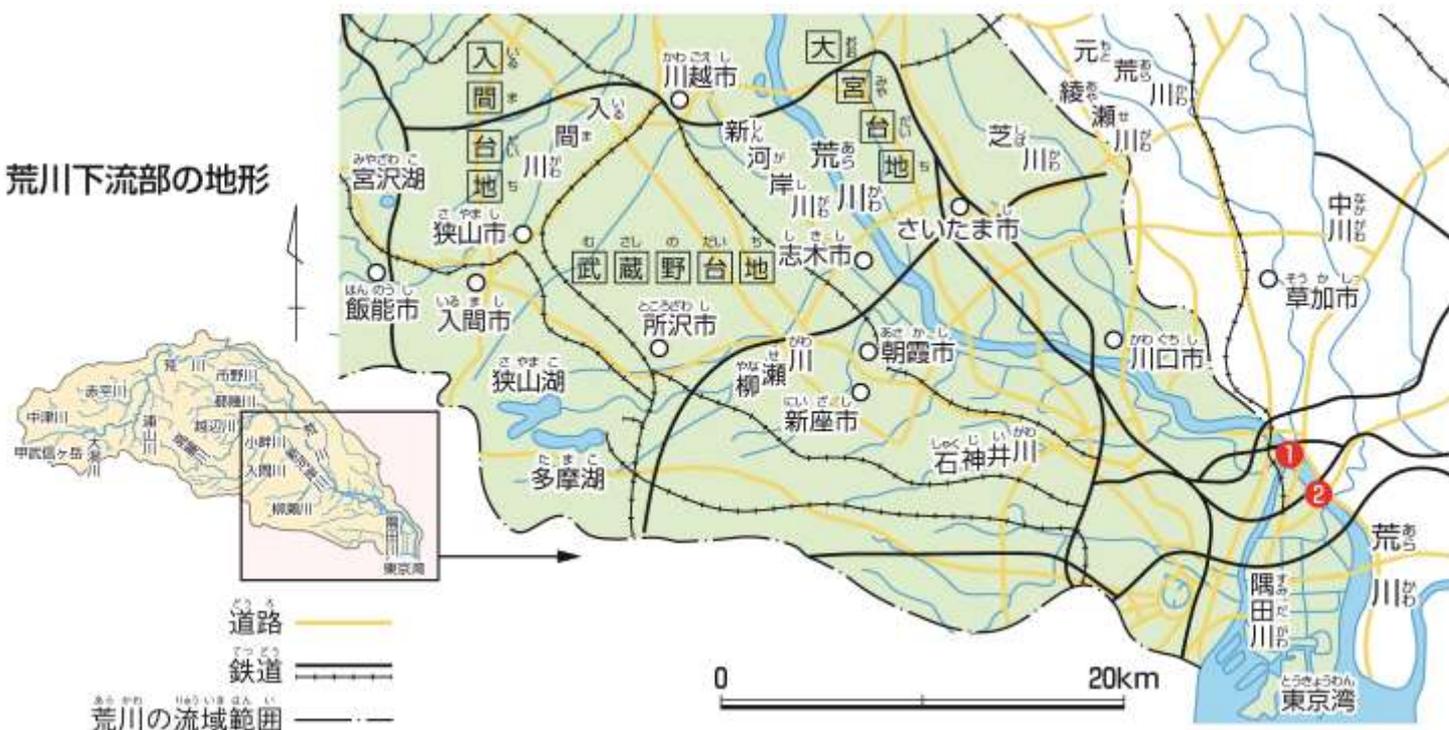


河道かどうの高さは、人の住んでいる地面とそれほど差がなく、雨が降り水の量が増えると、川の水みづ面が地面より高くなります。そこで、大きな堤防ていぼうがつくられ、地域ちいきを守っています。



①岩淵水門付近の荒川

荒川下流部の地形



②荒川放水路・左側で曲がりくねる川は隅田川(むかしの荒川)



下流では、堤防のすぐそばまで家があるんだ。



人間がつくった河口部

むかし、荒川の河口部(いまの隅田川)は細く、洪水を流しきれないので、太い放水路とよばれる川が新しくほられました。

川の豆知識 場所によってちがう河川敷のたい積物

上流

上流の石は大きく、ごつごつしています。



中流

中流では、カドがとれた丸まったものが多くなっています。



下流

下流では、じゃりや砂に近いものばかりになっています。



あら 荒川にはどんな生きものがいるんだろう？

上・中・下流でちがう生きものの種類

自然は、いろいろな種類の「生きもの」と「水」「空気」「土」「太陽の光」の5つの要素が複雑につながり、「生態系」と呼ばれる関係で成り立っています。

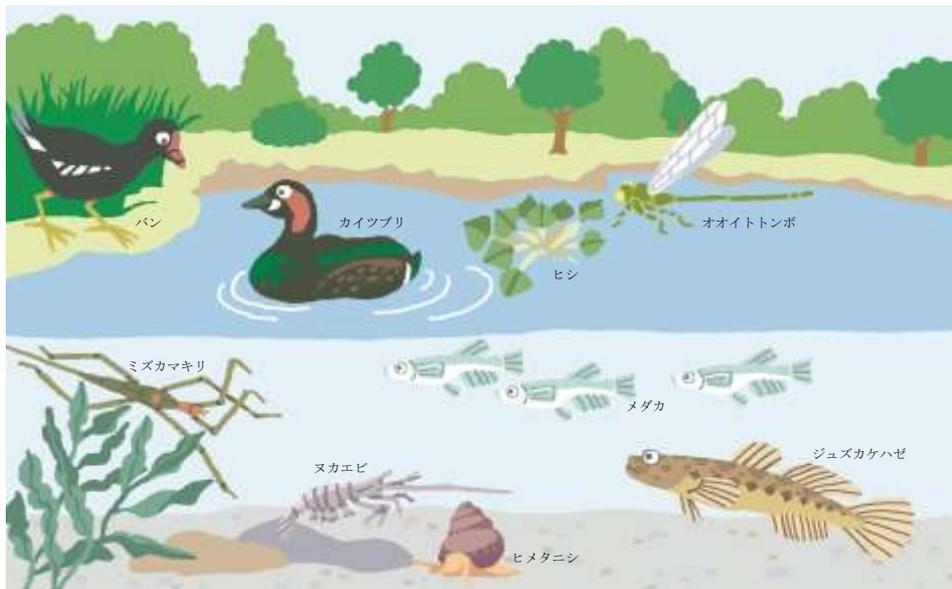
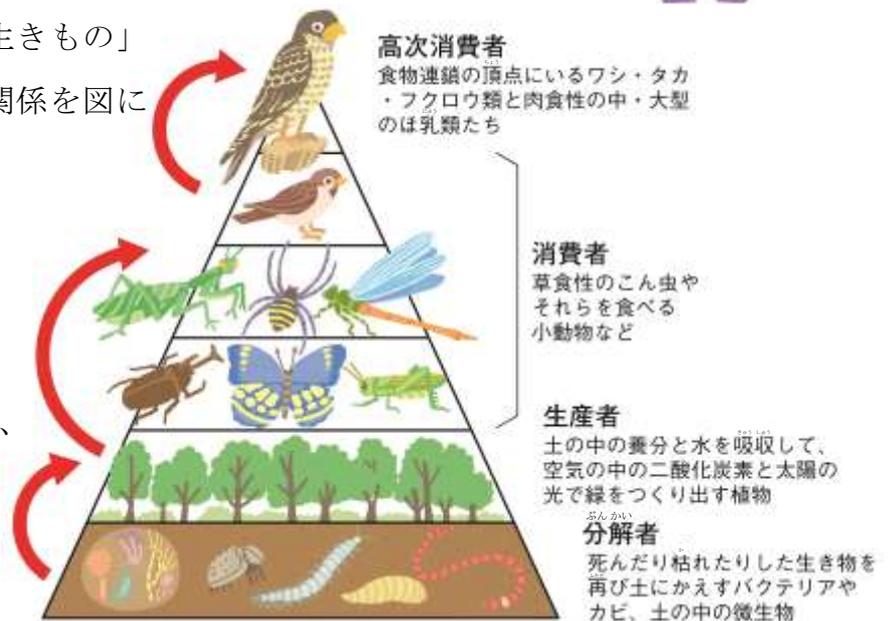
「生きもの」と「生きもの」は全て食物連鎖といわれる「食べる食べられる」の関係でつながり、食物連鎖の上のほうにいる「生きもの」ほど、数（個体数）が少なく、その関係を図にすると右のピラミッドのようになります。

川の流れをふくむ「生態系」は、上流・中流・下流・旧流路などで、大きなちがいをみせる川の流れにあわせて、そこに住んでいる「生きもの」の種類もちがひ、さまざまな自然が育まれています。

生きものには、広いはん囲を移動する種類もいるので、どこでも見ることのできる生きものもいます。



生態系ピラミッド



旧流路

水の流れがない沼には、川とはちがう生きものたちが生活しています。





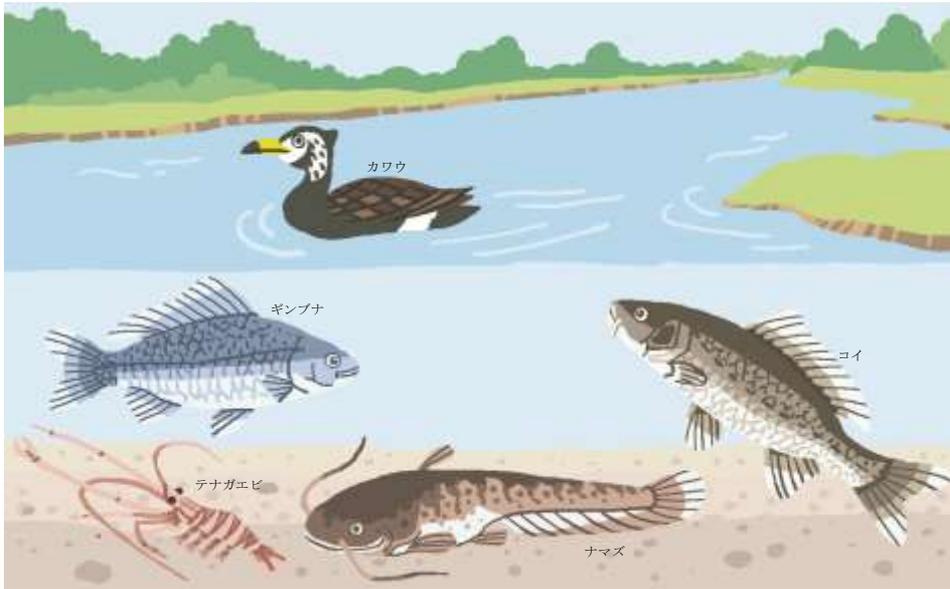
上流

きれいで、冷たい水が好きな生きものたちが生活しています。代表的な魚は、イワナやヤマメです。



中流

砂^{すな}や小石^{かわら}の川原では、コアジサシが卵^{たまご}を産みます。代表的な魚は、ウグイやオイカワです。



下流

河川敷^{かせんしき}が広く、ハンノキなどの林が見られるところもあります。代表的な魚は、コイやギンブナです。



あら 荒川の水はどこからきてどこへ行くのかな

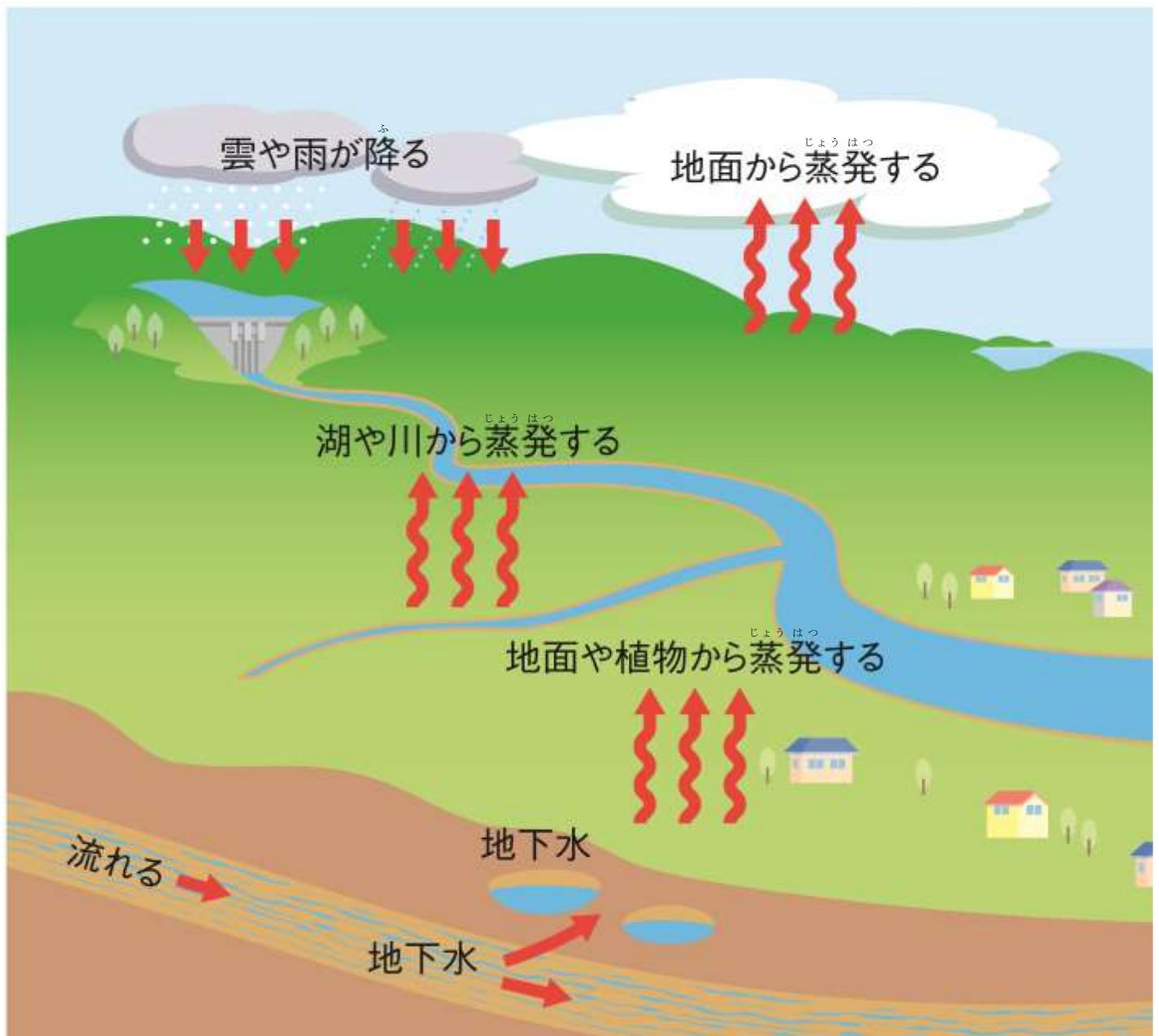
川の水はじゅんかんする水の一部

川の水は、海へ流れ出ますが、海にたまってしまふわけではありません。

海の水は、太陽の熱で蒸発し、水蒸気じょうきとなって空にあがり、そして空の上で冷えて、小さな氷や水のつぶになります。このつぶが集まると雲になり、やがて雨あめとなって地上に降ふってきます。

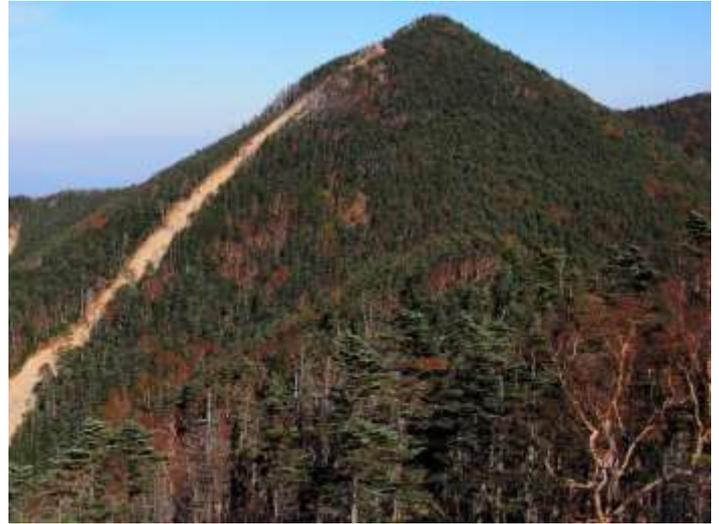
地上に降った雨は、川や地下水となって陸地の低いところへ流れ、ふたたび海にそそぎこみます。このように、地球上の水は姿すがたを変えながら、グルグル回っているのです。

荒川の水も、下の図のようなしくみの一部として流れています。

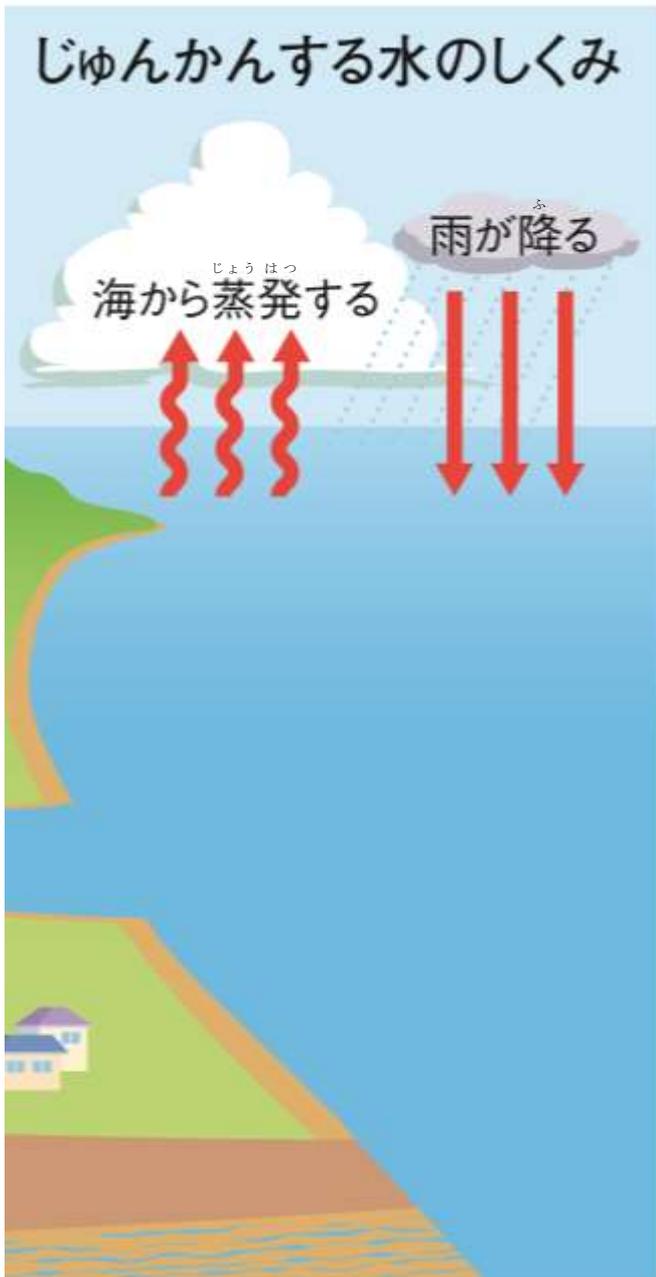


水をたくわえる上流の森林

上流に降った雨の一部分は、地面の下にもぐりこみ、そして、少しずつしみ出し、やがて川に流れこみます。川に出るまで、長い時間がかかるのは、森林が、土のなかに水をたくわえるからです。この森林の働きが、雨水が急激に川に流れ出るのをふせぎ、雨の少ない時にも川に水をあたえることとなります。



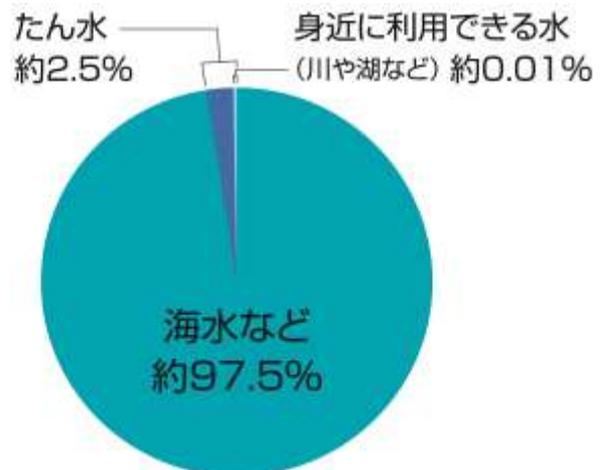
荒川源流の森林



川の豆知識

水の星＝地球で使える水の量は？

宇宙から地球を見ると、大部分が海、つまり水につつまれていることが分かります。たしかに、地球上に水はたくさんありますが、全体の約97.5%は海水で、たん水は残りの約2.5%です。しかも、そのほとんどが北極や南極の氷で、すぐに使える水は、全体のわずか0.01%ほどしかありません。



(出典:環境省レポート)

降水量に左右されやすい荒川の水量

荒川流域の気候と川の水の量

荒川は、川の傾きが急なため、降った雨がすぐ海に出てしまい、かつ水や洪水が起こりやすくなっています。

また、荒川流域の気候は、夏に雨が降り、冬には冷たく乾燥した「からっ風」が吹くのが特ちょうになっていることから、季節によって荒川を流れる水の量が大きく

変化します。

とくに冬は晴れの日が続き、全国的にみても降水量の少ない地域になっています。そのため、春先の雪どけ水が少なく、梅雨時に雨が少ない年は、夏に川の水がとぎれ、かつ水という状態になります。反対に、梅雨や台風で雨が深い年は、洪水になります。

変化する川の水位

水位とは、あらかじめ定められた基準面から水面までの高さのことです。ふつうのときと、洪水のときで川の水位は、大きく

変化します。高水敷はふだん、公園や運動場などに使われていますが、洪水のときは水の通り道として活やくします。



堤内地.....堤防に守られて私たちがくらししている場所
堤外地.....堤防にはさまれた川の流れる場所
低水路.....ふだん川の水が流れている場所

高水敷.....洪水などで増えた水が流れる場所
右岸.....川の上流から下流に向かって右側(左側は左岸)



※降水量とは.....雨や雪、ひょうなどが地上に降ってくることを降水といい、その量を降水量といいます。降水量は、降水がすべて地面にたまったとしたときの、深さで表します。

かつ水こうずいと洪水

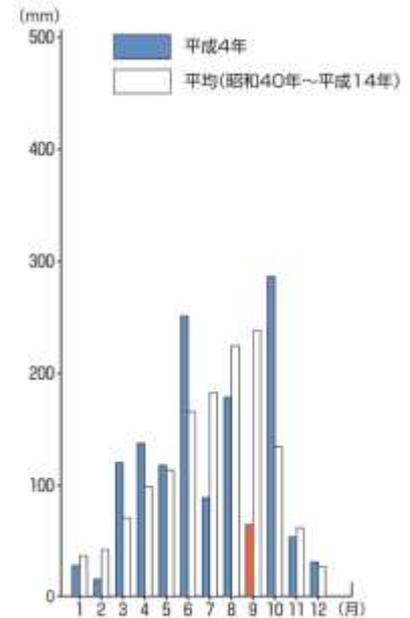
川に水が無くなるかつ水

長い期間にわたって雨が少ないと、川の流れがとぎれてしまう、かつ水という状態じょうたいになります。かつ水になると、ふだんは水の流れている部分がかわいてしまいます。



平成4年9月のかつ水のようす（熊谷市）

●かつ水のあった年の月別降水量こうずいりょう



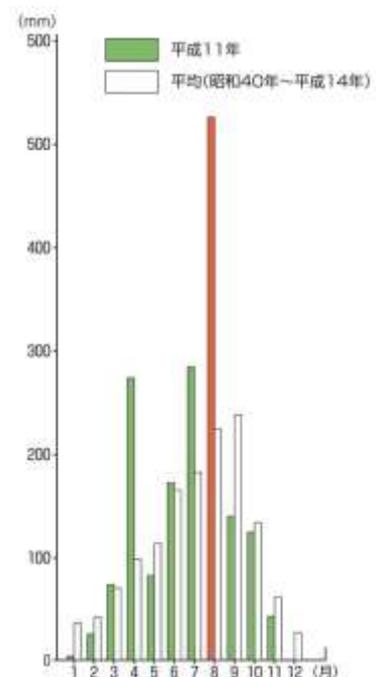
河川敷かせんしきいっぱいじょうたいに流れる洪水

降った雨が一度に川へ流れだし、川いっぱいじょうたいに水が流れている状態が洪水です。ふだんは、田や畑、公園になっている河川敷も、水の流れ道になります。



平成11年8月の洪水のようす（さいたま市）

●洪水のあった年の月別降水量こうずいりょう



生活の変化を映しだす荒川の水質

きれいになりつつある荒川の水

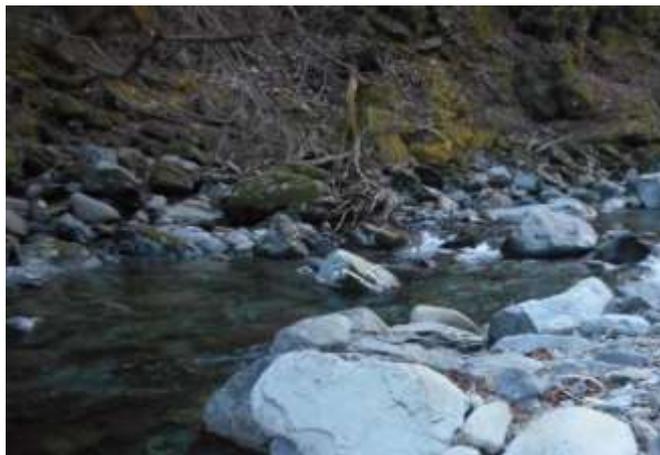
昭和30年代後半から、流域の開発が進み、人口が増えたり、生活が豊かになったりして水を使う量が増えたため、荒川へのはい水の量も増え、川の水はだんだん汚れてきました。

現在は、工場などのはい水を取りしめる法律が制定されたり、家庭からのはい水をきれいにする下水道の建設が進んだことで、きれいな水にもどりつつあります。

しかし、荒川の水は、今後さらに飲み水などとして利用されることになっていて、流域で生活するすべての人が協力し、きれいにする必要があります。

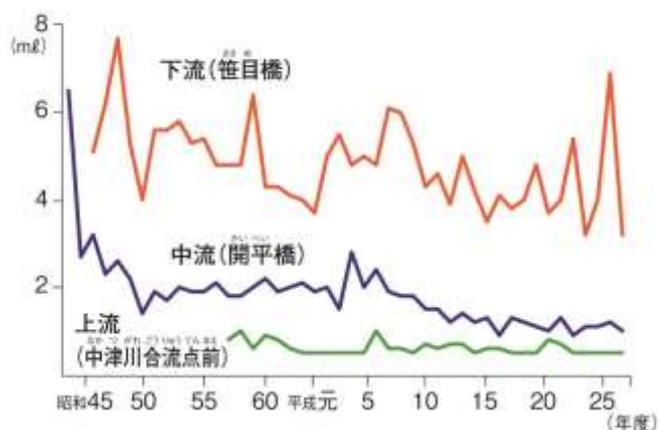
※BOD(生物化学的酸素要求量)とは……

川のごよれのていどを表す目じるしです。数値が高くなるほど、よごれが大きくなることを示します。



きれいな上流

●荒川の水質の変化(BODの年間平均値)



せいそく 生息する魚の種類で水質を調べよう

川にいる魚には、水のきれいなどころにしか生息できないものや汚れたところを好んで生息するものがあります。そこで、どんな魚が生息しているかを調べることによって、その場所の水質がわかります。

調査は、じっさいに水中メガネで泳いでいる魚を見たり、網で魚をすくって見たりするほか、釣りをしている人などにどんな魚が釣れるかを聞いてみたりして行います。



きれいな川のシンボル“ムサシトミヨ”

きれいな小川をすみかとするムサシトミヨは、くまがやもとの熊谷市の元荒川の一部にしかいない貴重な魚で「県の魚」に指定されています。

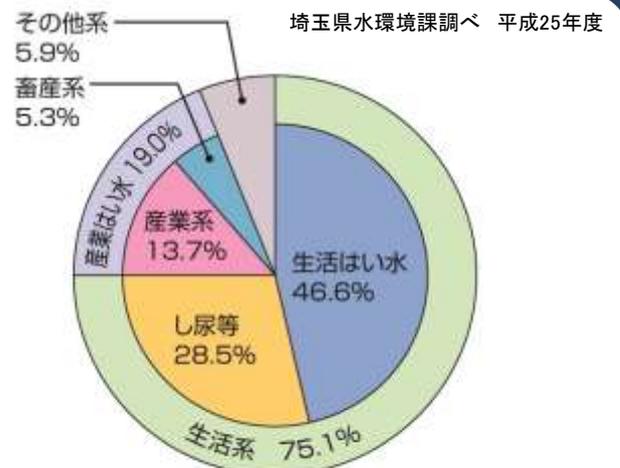
たんすい しすう ●淡水魚類別にみた自然度指数

非常によい環境 <small>かんきょう</small>	よい環境 <small>かんきょう</small>	ややよい環境 <small>かんきょう</small>	注意を要する環境 <small>かんきょう</small>
<p>アユ</p> <p>ヤマメ</p> <p>(その他) イワナ、トゲウオ類、カジカ類</p>	<p>ウグイ</p> <p>タナゴ</p> <p>(その他) ホトケドジョウ、カマツカ、カフムツ、スナヤツメ、タナゴ類</p>	<p>オイカワ</p> <p>チチブ(ハゼ類)</p> <p>(その他) シマドジョウ、アブラハヤ、ナマス、タモロコ、メダカ</p>	<p>ムツゴ</p> <p>フナ</p> <p>(その他) カダヤシ、ドジョウ</p>

ちしき 川の豆知識 荒川の水をよごすのはだれ？

川をよごす原因にはいろいろありますが、そのなかで一番大きな割合になっているのは、家庭から出される生活はい水です。生活はい水は、台所での洗いものや洗たく、フロ場などからのはい水です。

工場などから出されるはい水や、ちく産などから出されるはい水があります。



●BODで見た川を汚す原因

むかしの^{あら}荒川の^{すいがい}水害と、くらしを守る人々の^{ちえ}知恵

堤防で^{ていぼう}囲まれた人の住むところ

江戸時代の、荒川の河道のつけかえは、江戸城のあった下流部を、洪水のひ害から守ることが目的の一つでした。

洪水でこわいのは、ぼう大な水の量と流れのいきおいです。河道が変えられた荒川では、洪水が出たとき、一気に海へむかわ

ずに、広い中流部で、一度水がためられ、いきおいを弱めて下流へ流れるようになりました。

そのため、洪水のため池となった中流部の村には、村をぐるりと囲む、大囲堤が作られました。

江戸時代のおもな洪水災害

3900人もの死者を出した 寛保2年(1742)の洪水

この年の洪水は、利根川の洪水もあわせ、
武蔵の国(埼玉県・東京都)
一帯が水びたしになりました。



赤線のあたりまで水があふれました(長瀨町)



がけにきざまれた洪水の水位(長瀨町)

異常な水位となった 安政6年(1859)の洪水

寛保2年の洪水につぐ、大洪水で、寄居町から入間川が合流するあたりまで、水びたしになりました。



安政6年(1859)の洪水位をしるした岩(皆野町)

画像提供: 埼玉県立川の博物館

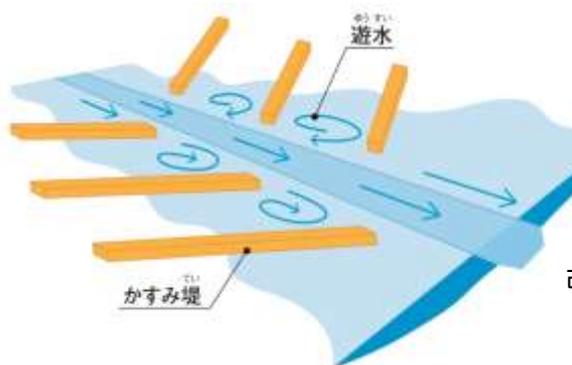


安政6年出水の図(坂戸市)

画像提供: 林茂美氏

むかしの堤防
かすみ堤

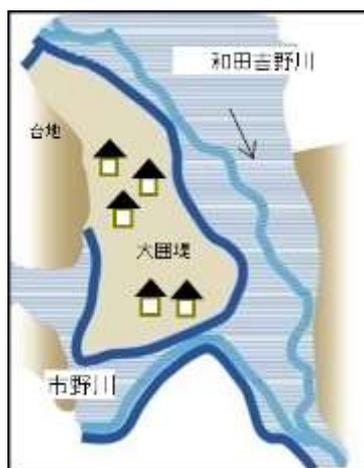
川の流れに対して、ななめにつくられた堤防です。洪水を堤防と堤防のあいだに少しずつ受けとめ、下流ではんらんを起こすのを防ぎました。



改修以前にあった越辺川のかすみ堤(坂戸市、鳩山町)

大囲堤

村をグルリと囲んだ堤防で、洪水から村を守りました。



平成19年、豪雨による洪水で大囲堤付近まで水がきました



大囲堤(吉見町)

川の豆知識

水塚・むかしの人の洪水対策

洪水がよく出る地域では、いつも住んでいる家より一だん高いところに水塚(ひ難用の家)が建てられました。



今も残る水塚(川島町)

いまの堤防は、いつごろつくられたんだろう？

広い川はばと横堤

明治になっても、荒川の中流部や下流部では、たびたび洪水災害におそわれました。

そこで、それまでの、人の住むところを堤防で囲むのとは逆に、川全体を堤防のなかに閉じこめる、連続堤防の建設が大正7年から昭和29年にかけて行われました。

そのときにも、洪水のいきおいを弱めることが求められたので、川はばは、大変に広くとられました。その効果を、さらに高めるため、洪水を受けとめる横堤という、全国でもめずらしい堤防がつけられました。

明治以降、最大のひ害を出した

明治43年の洪水

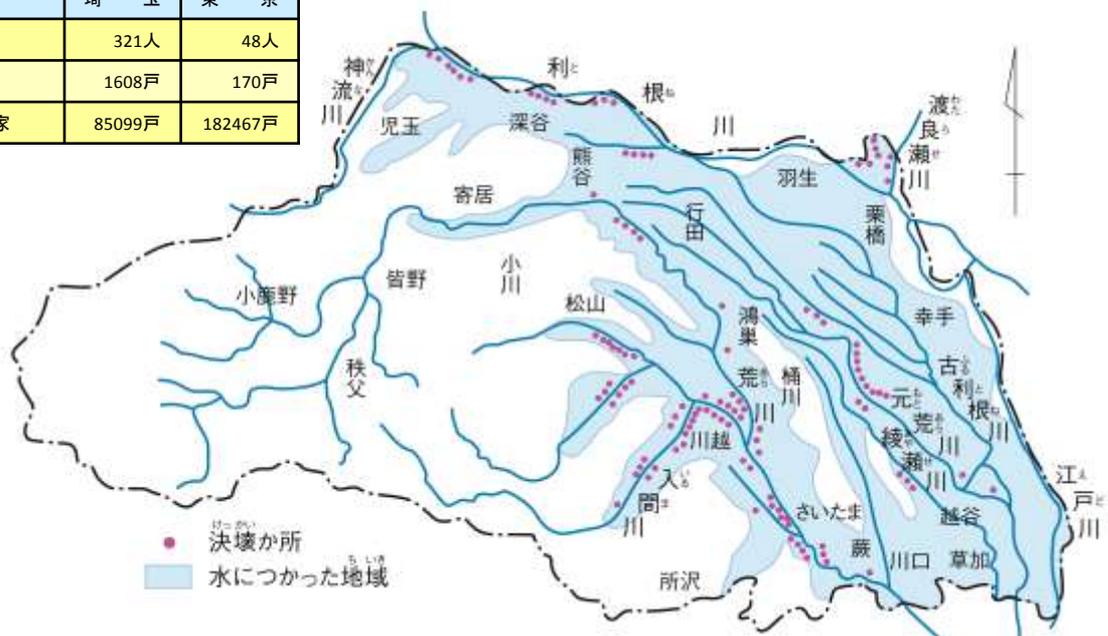
この年の洪水は、長雨のあとに台風が上陸し、川の水が増えたために起こったもので、死者・ゆくえ不明者数は370人近くにもなりました。

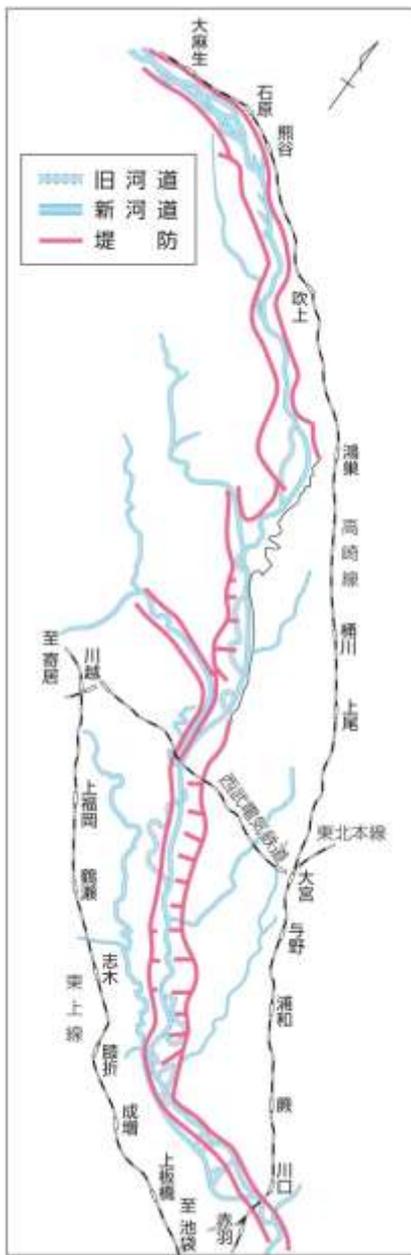
この洪水が、きっかけとなり、連続堤防の建設が始められました。



洪水のようす(川越市)

洪水ひ害		
	埼玉	東京
死んだ人	321人	48人
こわされた家	1608戸	170戸
水につかった家	85099戸	182467戸





荒川上流の改修計画(昭和2年)

ていぼう けんせつ
堤防の建設

堤防の建設には、外国からもたらされたじょう気機関車が活やくしました。



まみや
馬宮付近の堤防建設のようす(さいたま市)
画像提供:馬宮西小学校

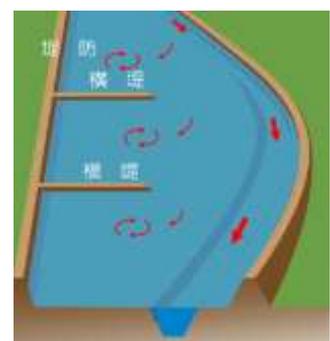
横堤の建設

横堤のしくみ: 洪水を受けとめて流れをゆるやかにします

ふだんの時: 横堤のある高水敷は田んぼです



洪水の時: 高水敷いっぱいになり水が流れています



ちしき
川の豆知識

いてん
移転された家

川はばの広い荒川をつくるために、多くの家が移転することになりました。

戸田市にある、どうまん道満グリーンパークのあたりも人家があったところです。



どうまん
道満グリーンパーク

あら ち すい し せつ 荒川につくられた治水施設

川を安全にするさまざまな施設

川を安全なものにするために、川のまわりには、堤防のほかにも、いろいろな施設が、上流から下流までつくられています。

洪水のはんらんを防ぐ施設は、次の3つのような働きをします。

①流域に降った雨が、川へすぐに流れ出ないようにする。

②洪水が、はんらんを起こさないように、特定の場所に一時的にためる。

③川に流れ出た水を、なるべく早く、海に流し出す。

川へ行ったら、どんな施設があるか見てみましょう。

ていぼう 堤防

川の水があふれるのを防ぐため、両岸に土を盛り上げてつくられる施設です。



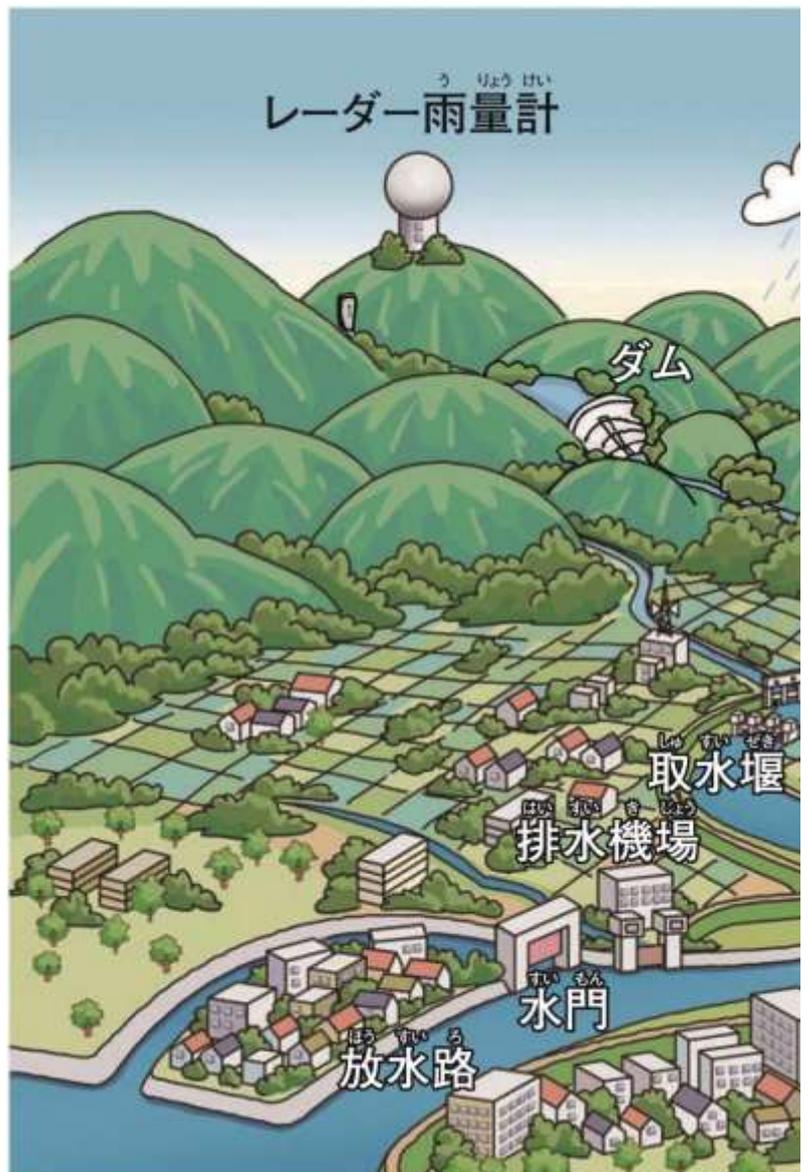
こあぜ かわごえ
小畔川の堤防(川越市)

ごがん 護岸

川の流れで川の岸がくずれるのを防ぐため、木や石、ブロックなどで岸を固めることを護岸といいます。そこにすむ生きものにやさしい護岸を多自然型護岸といいます。



とぎ ひがしまつやま
都幾川の護岸(東松山市)



水門・はい水機場^{きじょう}

大きい川から小さい川に洪水^{ぎやくりゅう}が逆流するのを防ぐために、川と川の合流する場所につくられたのが水門です。水門によって出口^{うしな}に失った水を、ポンプでくみ上げて大きな川に出すのがはい水機場です。



南畑はい水機場(富士見市)

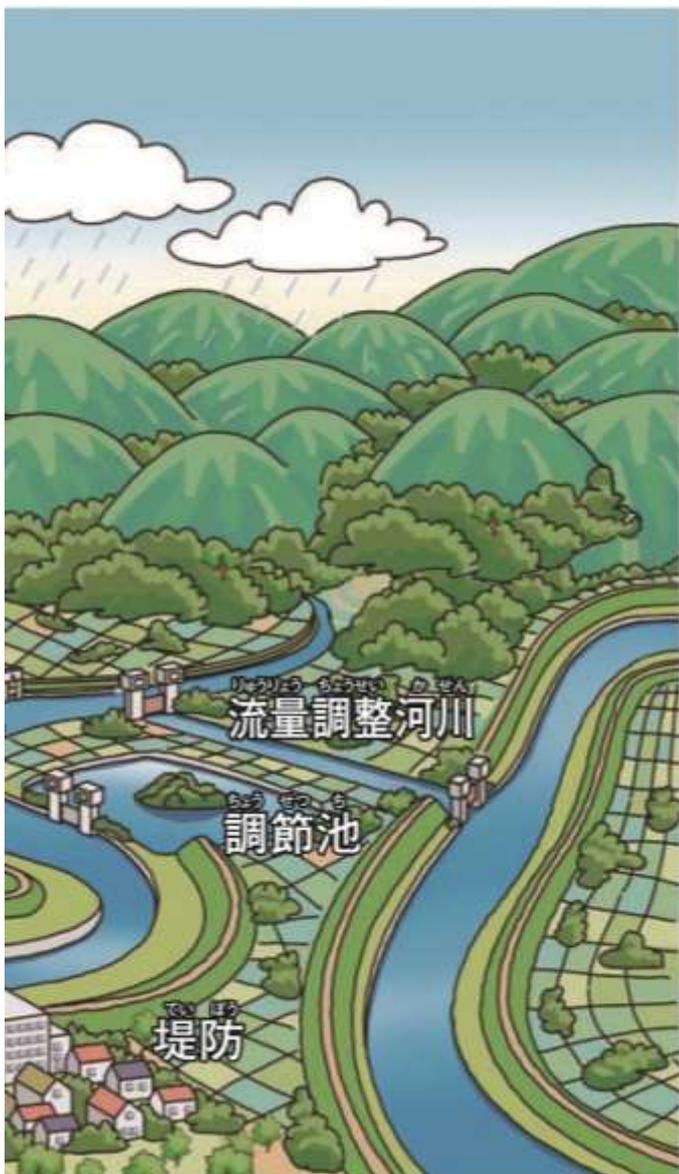
ダム

川の上流で、川の水をせきとめ、ためる施設です。大雨を一度に下流に流さないようにするほか、ためた水をいろいろな用水や発電に役立てる働きをします。



二瀬ダム(秩父市)

※中流部のダムとして、荒川第一調節池があります。



川の豆知識^{ちしき}

町の発展で起こりやすくなった しん水ひ害^{はってん}

むかしは緑が多く、川ぞいの低いところには田んぼがたくさんありました。こういう土地は、降った雨^ふを地下にしみこませ、川に出る水の量を調節するはたらきをしていました。

それが、町の発展で建物や道路にかわったため、降った雨はむかしの何倍もの早さで川に集まるようになりました。そのため川はあふれやすくなり、しん水によるひ害が起きやすくなりました。



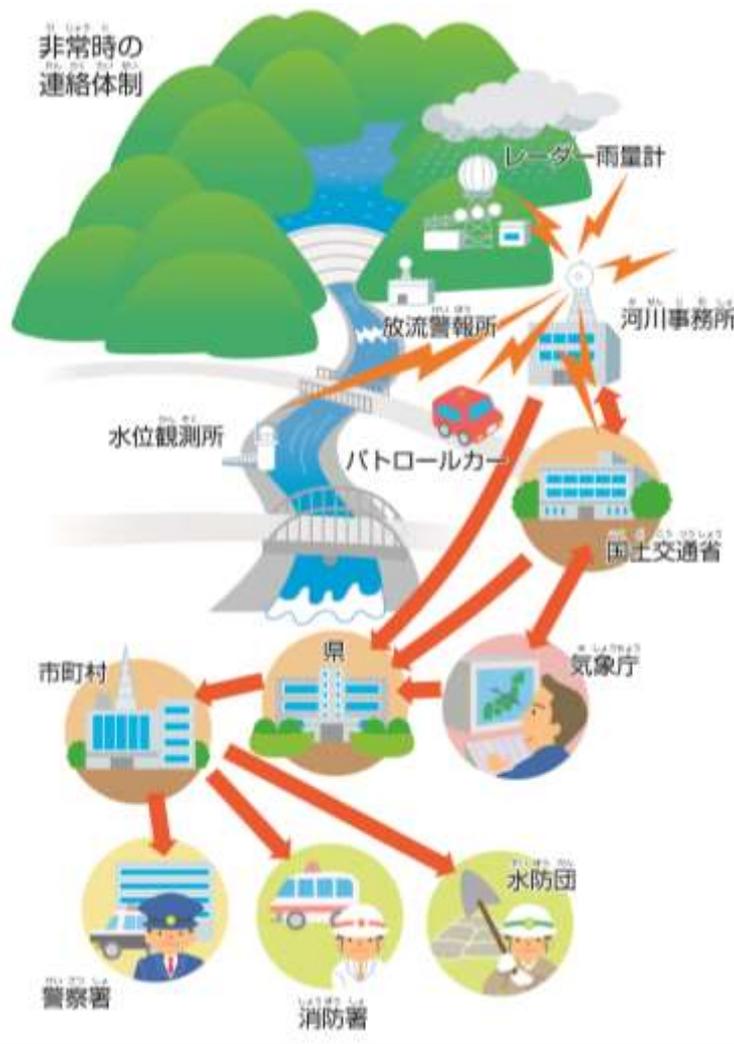
平成11年のしん水ひ害のようす
(鳩山町赤沼)

水害に備えて、流域ではどのように連絡しあっているのかな？

観測と連絡

洪水ひ害を防ぐには、川の施設をうまく働かせるために、いつでも川の様子や天気の様子を観測しなければなりません。また、予想以上の洪水になりそうな時には、ただちに連絡をしなければなりません。

そのために、川のいたるところに観測施設がもうけられるとともに、非常時の連絡体制が決められています。



住民が活やくする水防団

川の流域の町には「水防団」が組織されています。水防団のおじさんたちは、台風の時などに堤防に危険がないかを見てまわったり、岸や堤防を土のうや木で守ります。



▲水防訓練のようす。ビニールシートで堤防を保護



▲土をふくろにつめてつくった「土のう」を堤防につんでいます。

川を見守る施設

レーダー雨量計や水位観測所が、つねに雨や川の様子を観測し、洪水の危険を予測しています。

洪水だけでなく、かつ水にも備えて観測しています。



赤城山レーダー雨量計 (群馬県)



荒川上流河川事務所災害対策室 (川越市)



入間川落合橋水位観測所 (川越市)

川の豆知識 みんなも洪水に備えておこう！

○避難場所をおぼえておく



川越市ハザードマップ

○避難する時に持ち出すものを非常袋にまとめておく



あら 荒川の水を、むかしはどのように利用していたのかな？

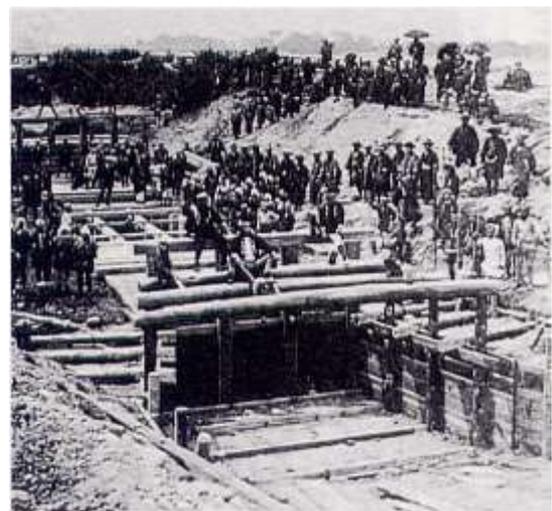
さいたま いなさく せき 埼玉県を稲作地帯にした堰と用水路

えど かどう
江戸時代の河道つけかえは、中流部や下流部の洪水ひ害を防ぐとともに、新田を開くことも目的の一つでした。

中流部では、荒川につくられた堰から、用水路に水を引き、新田を開きました。

それまでは、洪水の時ははんらん原だった場所だったので、土地が肥えていたこともあって、この地域は豊作地帯となつて、地域の経済を安定させました。

●六つの堰…江戸時代初期、荒川から用水を取り入れるために六つの取り入れ口（堰）がつけられました。



御正堰用水改修工事のようす(明治44年)
水路は木で作られました。
画像提供:熊谷市立江南文化財センター



六堰のようすをえがいた江戸時代の絵図(野中家文書) 画像提供:野中信子氏

あたらしい六堰

六ヶ所で取り入れられていた用水をまとめ、昭和14年から供給し続けてきた旧六堰頭首工は、近年では老朽化が進み、働きがおとろえていたため、平成10～14年度にかけて改築しました。

新六堰頭首工(平成15年3月完成)



埼玉県のおもな農業用水



川の豆知識 水をめぐって起きた争い

荒川の水は、多くの農民に恵みをもたらしました。しかし、荒川は水が不足するかつ水にもみまわれやすく、そのたびに水をめぐって農民どうしの大げんかが起きました。けんかは、川をはさんで石を投げあうというものでした。

昭和14年に六堰頭首工が完成してからは、争ったりすることは無くなりました。



ぶっし 物資を運ぶ交通路として利用されていた荒川 あら

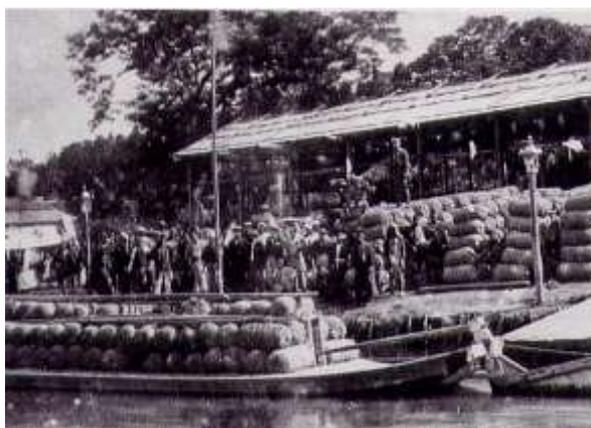
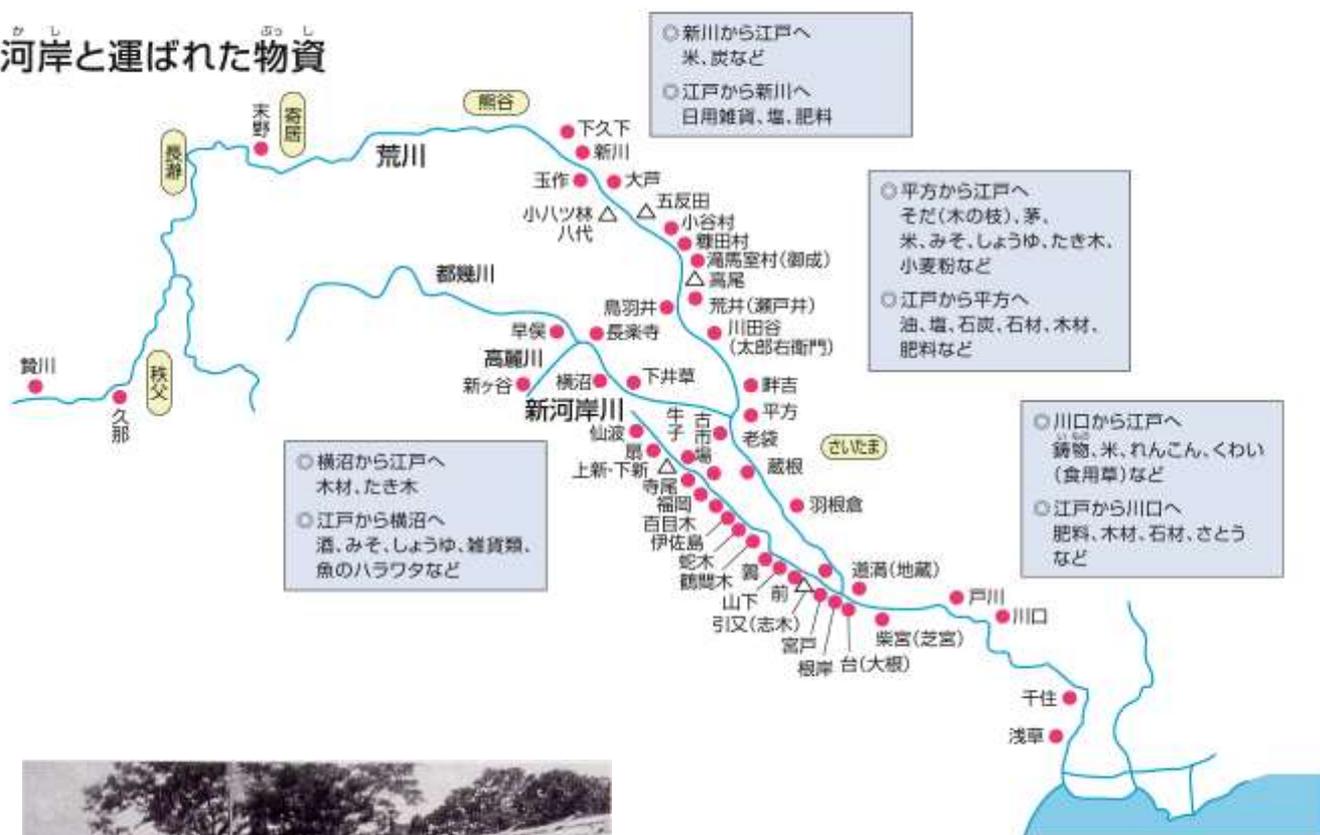
さかんに物資が行きかった荒川

鉄道や自動車のなかった江戸時代、大量に物資を運んだのは船です。川には、たくさんの川船が行きかい、物資の積みおろしの場所である河岸が、発達しました。船を使っての物資輸送は舟運と呼ばれましたが、荒川でも、水量が豊富で、流れがゆるやかだった久下（熊谷市）から下流にある河岸

と江戸のあいだで、舟運がさかんに行われました。

舟運により、物資の取り引きがさかんになるにつれて、各地の特産物が注目されるようになり、秩父の絹織物、狭山の茶などが特産物としてさかんに生産されるようになりました。

河岸と運ばれた物資



荷物の積みこみでにぎわう河岸（志木市） 画像提供：井下田潤氏

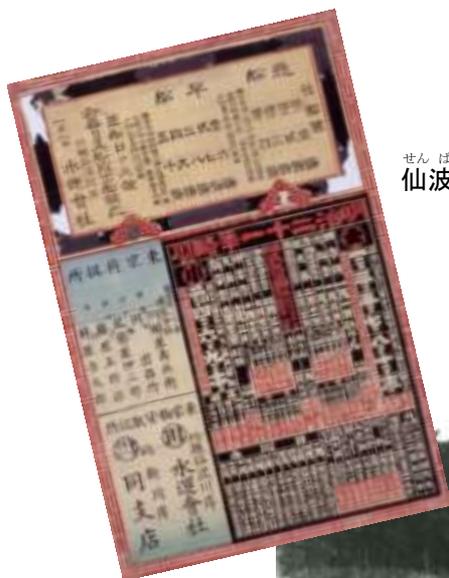
△印は元禄3年(1690)に年貢米回送用運賃が決められた河岸
●印は元禄3年以後に成立したと推定される河岸
（「荒川総合調査報告書」より）

しゅうらん 舟運のようす

舟運で活やくしたのは、船底が平らで瀬の浅い川でも通れた高瀬舟です。高瀬舟は、ほを張ると風の力で、川をのぼることができました。



新川早船の絵馬・船の安全を願って琴平神社に奉納されました(行田市)



仙波河岸の公告・運航予定表です(川越市) 画像提供: 斎藤貞夫氏



大正時代のはじめ、新河岸川を行く高瀬舟(志木市) 画像提供: 井下田潤氏

ちしき 川の豆知識

イカダに組んで流した木材

秩父山地や入間地方西部にはえていたスギやマツは、それぞれ秩父材、西川材と呼ばれ、江戸の町づくりで大量に使われました。このとき、木材はイカダに組まれ、川の流れで運ばれました。秩父材は荒川を、西川材は入間川・高麗川を、江戸の深川まで送られました。



イカダ流し(飯能市) 画像提供: 飯能市郷土館

いま荒川の水は飲み水にもなっているんだ

荒川の水を生活用水として

私たちは、水道のじゃ口をひねれば、かんたんに水を手にすることができます。この水道の水は、ほとんどが川から引かれた水です。

水道がつくられた最初のころは、地下水をくみ上げて使っていました。しかし、人口や工場が増えたため、地下水だけでは足りなくなり、川の水を使うようになりました。

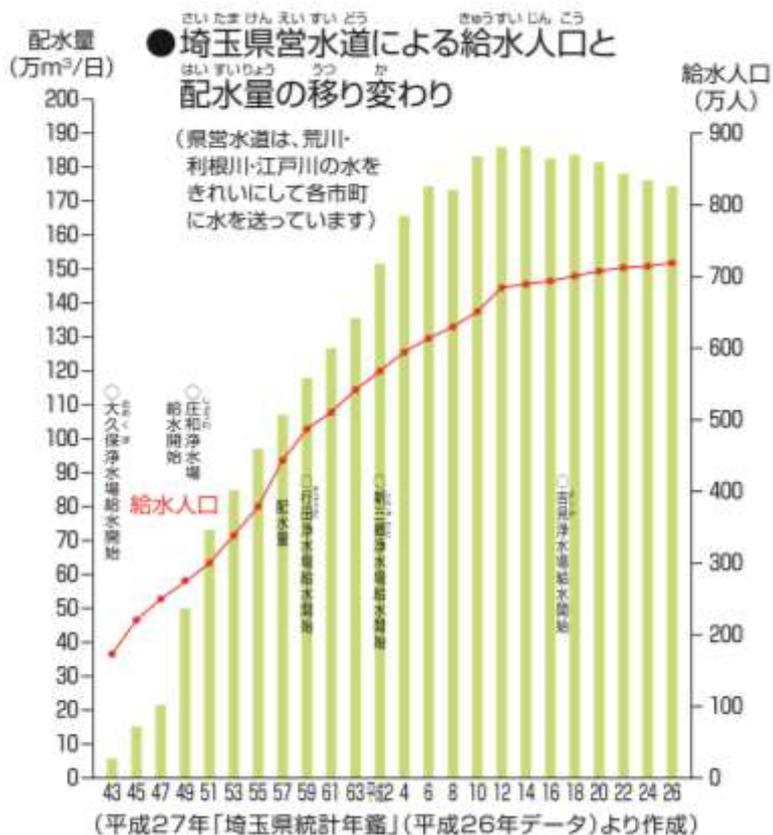
東京や埼玉県さいたまの人口が増えるのにあわせて、荒川の水を有効ゆうこうに利用するため、上流部に水を貯めるダムがつくられてきました。

また、利根川の水を荒川へ運ぶ水路（「武蔵水路」）などもつくられてきました。

下流の荒川第一調節池にある貯水池「彩湖」も用水確保のはたらきをしています。



よしみじょうすいじょう
吉見浄水場



あきがせしゅすいせき
秋ヶ瀬取水堰



おおくぼじょうすいじょう
大久保浄水場



むさし
武蔵水路



川の豆知識

さまざまに活やくする川の水

川の水が使われるのは、私たちの生活や農業だけではありません。生活に必要なものを作る工場や発電などでも、川の水は使われています。

みなさんも、どんなところで水が使われているのか調べてみましょう。



はんのう ありま
飯能市にある有間ダム。このダムは洪水を調節するほか、田畑のかんがい用水や都市用水を確保しています。

ダムや調節池はなぜあるの？

川の流れを安定させ、水害や水不足を防ぐダムや調節池

自然のままの川の流れは、雨量に左右され、たいへん不安定です。そこで、古くから人々は水害や水不足を防ぐため、堤防や堰などを造ってきました。昭和10年ころからは、それらの施設を別々に造っていたのではむだという考えかたが広まり、いくつもの役割を果たす多目的ダムや調節池の建設が計画されるようになりました。

多目的ダムや調節池は、大雨の時に水をため、雨が少ない時に水を流すことで、川の流れを安定させる施設で、水害や水不足を防ぐはたらきをします。

荒川では、昭和22年のカスリーン台風ごう雨による洪水が、激しい水害をもたらしたことから、多目的ダムや調節池の建設が急がれるようになり、昭和36年度に二瀬ダムが完成しました。

多目的ダム建設のきっかけとなった昭和22年カスリーン台風による水害

カスリーン台風ごう雨による洪水は荒川の熊谷市久下地先や入間川のいたるところで堤防をやぶり、大きな水害を各地にもたらしました。この時は、利根川からの洪水もあわさり、埼玉・東京の低地帯は海のようにになりました。しかし、下流部では放水路が完成していたので、出水による水害はありませんでした。



▲堤防決壊地点の様子
(熊谷市久下地先)

▲むかし堤防が決壊したことを伝える「決潰の碑」

カスリーン台風のときの雨の量と水につかった所

洪水のひ害		
	埼玉県	東京都
死んだ人	101人	13人
こわされた家	3,231戸	187戸
水につかった家	79,502戸	112,960戸



カスリーン台風(昭和22年)より前に造られたダムは、用水の確保^{かくほ}だけを目的にしたものなんだね。



調節池は平地のダムともいわれる施設^{しせつ}なのよね。

ダムの統合管理^{とうごうかんり}

洪水やかつ水^{ちようせつ}のとき、川の水を調節したり飲み水や農・工業用水に用いられる水をより効率的^{こうりつてき}に利用するため、荒川にあるダム群^{ぐん} (二瀬ダム、浦山ダム、滝沢ダム、荒川第一調節池) をまとめて管理^{かんり}しています。

埼玉県内にあるおもなダム・調節池

ダム () は完成年度

● 調節池

○ 荒川の統合ダム群



▲二瀬ダム



▲浦山ダム



▲滝沢ダム



▲荒川第一調節池

川の豆知識^{ちしき} 水源地^{すいげん}の人々の理解^{りかい}と協力^{りやく}でつくられるダム

ダムは完成すると、広いはん囲^{はんい}の土地を水の底にしずめます。そのため、そこに住んでいる水源地の人たちは、長い年月にわたり働き生活していた土地をはなれ、別の場所^{いけん}に移転しなければなりません。ダムを必要とするみんなの願いを、水源地の人たちに理解してもらい、協力してもらうことで、ダムは造られているのです。



▲滝沢ダムの完成で、ダム湖にしずんだ集落。ここに住んでいた人は移転しました(浜平地区)

首都圏を洪水から守る調節池^{ちようせつち}

広い河川敷につくられた荒川第一調節池^{かせんしき あらかわ ちようせつち}

ときとして、大雨のあとなどに、おそろしい洪水が流れる荒川では、下流部に一度に洪水が押し寄せ^{こうずい}ないよう、洪水を受けとめる広い高水敷や横堤が中流部にもうけられています。

荒川第一調節池は、この高水敷の一部を堤防でかこみ、受けとめた洪水を一時的にためることで、より安全に洪水を流す施設^{しせつ}です。洪水がないふだんの調節池は、多くの人々が利用できる草花が豊かな広場や公園などとして利用されています。

貯水池の名前は「彩湖」^{さいこ}

「彩の国」埼玉を代表するような大きな湖であることから、「彩湖」という名前が選ばれました。



▲「彩湖」記念碑



▲洪水をためる荒川第一調節池



荒川第一調節池は、本堤(左岸堤)と囲繞堤に囲まれた5.8km²の区域です。その中には、ふだんもかつ水に備えて水をためる貯水池「彩湖」や、みんなが利用できる公園があります。

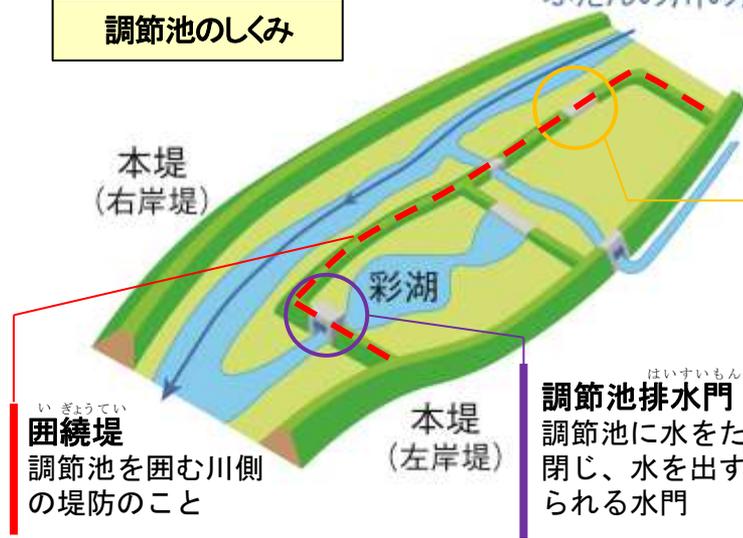
荒川第一調節池の 大きさ

- 広さ5.8km²
= 蕨市の面積とほぼ同じ^{わらび}
- たまる水の量
3900万m³
= 学校プール
15万6千杯^{はい}



調節池のしくみ

ふだんの川の流れ



えつりゆうたい

越流堤 (洪水の入り口)

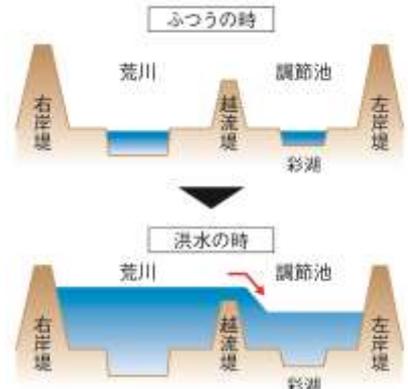
囲繞堤の一部で高さが低いところ。川の水位が上がったとき、洪水が越流堤を越えて、調節池に流れこむ

いぎょうたい

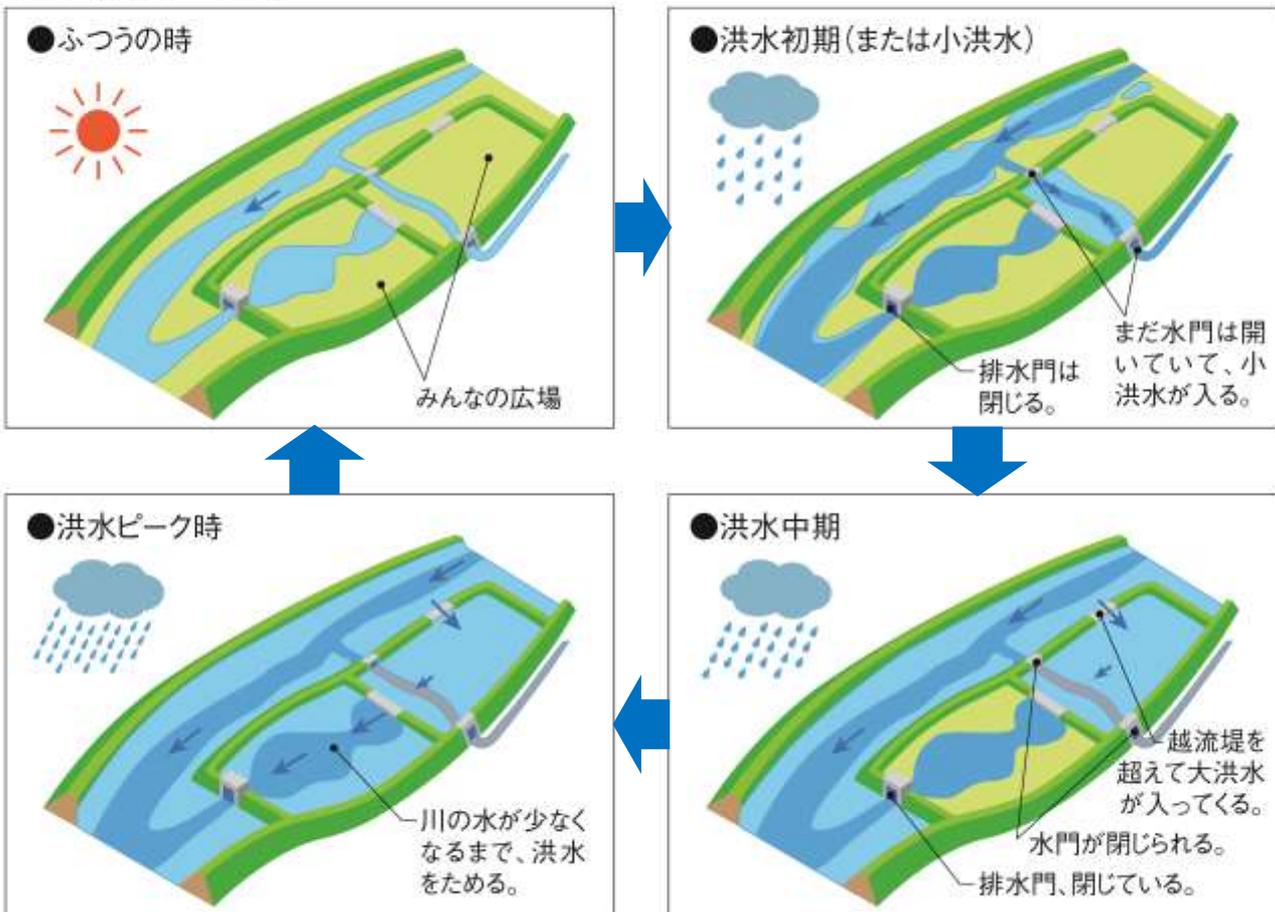
囲繞堤
調節池を囲む川側の堤防のこと

本堤 (左岸堤)

はいすいもん
調節池排水門 (洪水の出口)
調節池に水をためる時に閉じ、水を出す時に開けられる水門



洪水調節のようす



川の豆知識

貴重なサクラソウも守る荒川第一調節池

絶滅が危ぐされる貴重な植物=サクラソウは、年に数回、洪水につからないと育つことのできない珍しい植物です。荒川第一調節池内には、国の天然記念物に指定される田島ヶ原自生地があり、水門などの操作で、適度の洪水がかかるよう工夫されています。



▲春にかわいいピンクの花を咲かせるサクラソウ。

あら 荒川を大切な自然のかなめに……

ゆた 豊かな自然が残る荒川

荒川の中流から下流にかけての広い河川敷には、砂や小石の中州やヨシ原、旧流路など、さまざまな自然環境が残され多くの生きものがくらししています。

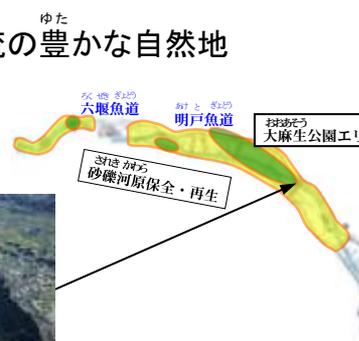
この荒川の自然は、秩父山地と下流の平野部を移動するような生きものにとって、都市化が進む埼玉県南部地域に残されたゆいーのルートとして、大変に重要なものになっています。



▲河川敷の自然は野生のキツネやウサギの大切な生活場所になっています。



あさば 浅羽ピオトープ



■荒川中流の豊かな自然地



くまがや 熊谷市付近の砂礫河原



みつまたぬま 三ツ又沼ピオトープ

荒川太郎右衛門地区自然再生地

荒川太郎右衛門地区自然再生地は、約70年前の河川改修で荒川の本流が直線となったとき、旧流路として残った3つの「池」を中心とした場所です。

この地区では、かつての豊かな自然環境を取り戻すため、自然再生推進法という法律に基づき、国、地域住民、近隣の自治体、学識経験者等で組織される自然再生協議会を立ち上げ、湿地環境の創出や河畔林の保全・再生などを行っています。



▲旧流路(上池)



▲ハンノキ



▲ミドリシジミ



▲自然再生協議会の様子

より良い自然を残すための川づくりも進められているんだね。



- きれきかわら
砂礫河原
- まとまりのある自然地

ア



荒川ビオトープ

荒川ビオトープは、それまで平坦な麦畑だった北本市・川島町の河川敷に、池やぬま、凹凸地、ヤナギ・ハンノキ林が整備された空間です。とりにある「北本自然観察公園」と一体となった大自然では、荒川中流の代表的な生きものの多くがくらし始めています。



(川島町)

川の豆知識 砂や小石の川原にも、多くの生きものがくらししています

河川敷には緑豊かな場所のほか、砂や小石だけの川原もあり、そこでも、コアジサシやチドリ科の鳥など、多くの生きものが生活しています。ですから、ただの砂地に行っても、生きものたちをおどろかすような行動はやめましょう。



▲荒川に広がる砂や小石の川原



▲砂れき地に巣を作り、生活するイカルチドリ

あらかわ みずべ 荒川をみんなが集まる水辺に……

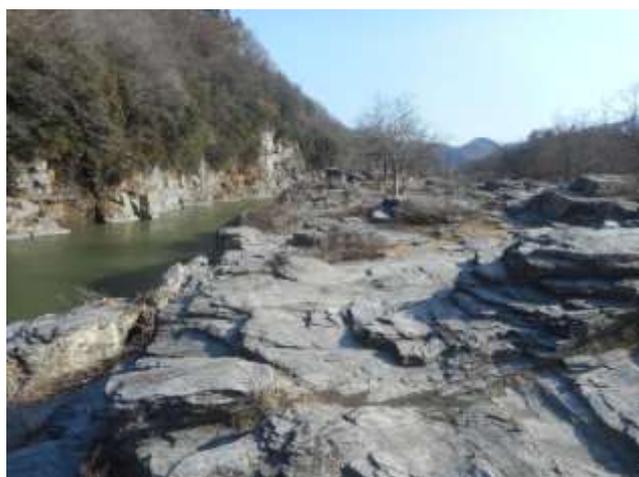
か せん しき みずべ かい てき 広い河川敷、水辺はみんなの快適空間

荒川の広い河川敷は、生きものの大切な生活空間であるとともに、私たち人間のいこいの場、遊び・スポーツなどの活動ができる広場としても大切な役目をしています。

これからは、より多くの人が集えるよう、町から川への道順を案内する看板や、イベントや祭り、水上スポーツなどを楽しめる施設づくりが計画されています。

河川敷でサッカーや野球したいな。

いろんな鳥や植物を観察できるとうれしいな。



▲ゆう大な自然景観の変化が見られる
ながとら
長瀬の石畳(長瀬町)



▲ていほう なみ き
堤防の桜並木の下で花見を楽しむ人たち(熊谷市)



▲河原での体験学習(寄居町)



▲川におみこしをかつぎこむ川瀬祭(秩父市)
かわせ
画像提供: 秩父市

川に興味を持ってもらうための取り組み「荒川図画コンクール」



▲平成28年度荒川図画コンクール 特選作品(現在2年生)

このコンクールは、小学生の皆さんに図画を通して川に親しみ、川を愛する心を養ってもらうためのものです。みんなも応募してみましょう。第27回目となる平成28年度は、32市町村163小学校から、1,482点の作品応募がありました。



▲スポーツを楽しむ人たち。広い河川敷には数多くのスポーツグラウンドがあります(さいたま市)。



▲水辺ではいろんな発見があります(坂戸市)。

川の豆知識 荒川の自然にふれてみよう

荒川の大切な自然を守り育てていくためには、多くの方々の協力が必要です。荒川上流河川事務所では、三ツ又沼ビオトープや太郎右衛門自然再生地などにおいて、学校や企業・団体、流域の市民などと連携し、外来植物(外国から日本に入ってきた植物)を抜く作業や在来植物(昔から荒川の河川敷に生育していた植物)を植える作業、自然観察や動植物の調査などに取り組んでいます。みなさんもぜひ参加してみましょう。



▲環境保全活動が終わった後、参加者で話し合う様子。



▲ハンノキを植える作業の風景

あら 荒川とともに歩み、 さいたまの今の発展を築いた偉人たち

荒川にまつわる偉人たちの足跡

荒川の流はむかしより、周辺地域に住む人々に豊かな恵みを与えてきました。それらの恩恵を、経済や文化にしっかりと活かすべく取り組んできた人たちがいます。その働きが、さいたまの今の発展

にとっていかに重要なものであったのか。ここでは荒川の治水、農業、物流、芸術に貢献した5人について、その仕事ぶりをご紹介します。

治水

伊奈備前守忠次(1550~1610) 伊奈半十郎忠治(1592~1653)

荒川の歴史に残る大改修工事を手がけた父子

伊奈備前守忠次は、徳川家康の関東入国後、小室(今の伊奈町)などに移住し、荒川流域の新田開発のための堰や水路を作った人物です。さらに、水害への備えとして、周囲を荒川や入間川などに囲まれた現在の川島町一帯に堤防を築くなど、江戸を安心して暮らせる街にするべく大きく貢献しました。



伊奈忠次の墓
(勝願寺・鴻巣市)

そんな父の仕事ぶりを幼い頃から身近で見ていた息子・忠治は、若くして河川工法を習得。父の意志を継ぎ、荒川の大改修とよばれる河川工事をやり遂げます。この工事は、台地を切り割って新しい水路を作り、荒川の流を変えてしまうという大規模なもの。これにより、荒川は利根川と別れ、入間川筋から隅田川を経て江戸湾へと流れ込むようになりました。

荒川の大改修以降、洪水に悩まされていた熊谷付近一帯では、荒川の流がそれで水害の心配からも解放され、新田開発が急速に進んだといえます。

川の豆知識 荒川のつけかえがもたらした影響

埼玉県東部の新田開発や荒川を利用した舟運がすすむようになり、江戸の町を発展させました。しかし、荒川の水を受け入れることになった和田吉野川や市野川の周辺では水害が増え、村をグルリと囲んだ「大囲堤」や洪水から避難するための「水塚」がつけられました。



浸水しないように
盛土に建てた水塚

農業

まつたらのぶつな
松平信綱（1596～1662）

荒川流域の水田開発に力を注いだお殿さま

松平信綱は、伊奈氏によって作られた川島^{かこいづみ}困堤をより強固にし、水田地帯の整備と発展に力を注いだ人物です。さらに、川越城主^{かわごえじょうしゅ}として、原野^{げんや}の野火止^{のびどめ}の地^{たまがわようすい}に玉川用水から水を引く工事に取り組み、わずか200石だった土地を2000石のお米が収穫できる豊かな水田地帯へと生まれ変わらせました。



いまでもその姿を残す川越城本丸御殿の玄関・大広間

物流

ひらがげんない
平賀源内（1728～1779）

荒川上流からの“舟の道”をひらいた江戸の天才

江戸時代の科学者、発明家、小説家など、多彩な顔もつ才人・平賀源内。彼と荒川との関わりは、鉾山^{こうざん}開発をめざすビジネスマンという顔にありました。源内は、鉾山^{さいくつ}で採掘した石炭などの資源を荒川から舟で江戸へ運ぼうと考えついたのです。後に、この舟運は木炭^{うんぼん}の運搬に利用されるなど、荒川の経済発展に大きく貢献することになります。



芸術

うたがわひろしげ しょだい
歌川広重・初代(1797～1858)

荒川・隅田川の風景を愛した江戸時代を代表する浮世絵師

風景画で有名な広重は、川辺を好んで描いたことで知られます。右の作品「大はしあたけの夕立」では、隅田川に架けられていた新大橋を描いています。また、「隅田川堤の花見」という作品では、対岸の家並みや渡し船^{びょうしや}といった風景を細やかに描写。隅田川の美しい姿を今に伝える傑作^{けっさく}を残しています。



歌川広重作「大はしあたけの夕立」
画像提供：埼玉県立川の博物館

行ってみよう！川の学習施設し せつ

川し せつのことが学習できる県内のさまざまな施設

荒川流域には、川や自然について学んだり、体験したりできる博物館や資料館がたくさんあります。荒川の歴史やくら

しとのかかわりについてもっと知りたい人は、出かけてみましょう。

●埼玉県立川の博物館はく ぶつ かん

館内には川下りの体験ができるアドベンチャーシアターなどがあります。

また、野外には全長173mの荒川の地形もけいや直径23mの大水車だいすいしゃがあり、荒川をはじめとする川と、人々の暮らしのかかわりについて楽しみながら学ぶことができます。



▲1F 第1展示室
常設展示で、「荒川と人々の暮らしとの関わり」をメインテーマにしています



▲屋外展示「荒川わくわくランド」
治水、利水の学習ができるウォーターアスレチック施設



▲アドベンチャーシアター
川面から、空から、スリリングに川を下る疑似体験ができるバーチャルシアター



▲噴水広場と大水車
美しい水のアートを創る噴水群・直径23mの大水車

■開館時間：9時～17時（入館は閉館の30分前まで）

※夏休み期間中は閉館時間が異なります。

■休館日：●月曜日（祝日、振替休日、県民の日は開館）●年末年始（12月29日～1月3日）

※ゴールデンウィーク期間（4/29～5/5）、夏期（7/1～8/31）は無休

■入館料：有料

■住所：〒369 - 1217 埼玉県大里郡寄居町小園39

■問い合わせ：TEL048 - 581 - 7333

さいこ し ぜん がく し ゅ う
●彩湖自然学習センター

豊かな自然が残る彩湖・道満グリーンパークにあり、「見てごらん・さわってごらん・聞いてごらん」をテーマとする体験型の学習施設です。

- 開館時間: 10時～16時30分
- 休館日: 第2・第4・第5月曜日(祝日の場合は開館)
／年末年始(12月29日～1月4日)
- 入館料: 無料
- 住所: 〒335 - 0031 埼玉県戸田市大字内谷2887
- 問い合わせ: TEL048 - 422 - 9991



▲5F 荒川のすがた



▲3F 草原・湿原の不思議

し ぜん がく し ゅ う
●埼玉県自然学習センター

きたもと し ぜんかんさつこうえん ぼうえんきょう
北本自然観察公園の中にあり、2階の望遠鏡からは園内の野鳥を観察することができます。土日祝日を中心に、自然にふれあうイベントを開催しています。

- 開館時間: 9時～17時(夏に延長開館期間あり)
- 休館日: 月曜日(祝日の場合は開館)、祝日の翌平日。ただし、夏休み・春休み・冬休み期間中は臨時開館あり。
- 入館料: 無料
- 住所: 〒364 - 0026 埼玉県北本市荒井5 - 200
- 問い合わせ: TEL048 - 593 - 2891



▲埼玉県自然学習センター外観



▲1F 1本の木は語る(中央エントランス)

ち すい し り ょ う か ん
●荒川知水資料館 amoa(アモア)

荒川についてのさまざまな情報をビデオなどで楽しく学ぶことができます。

- 開館時間: 9時30分～17時(入館は閉館時間の30分前まで)
ただし、12・1・2月の閉館時間は16時30分、7・8・9月は17時30分)
- 休館日: 月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日、年末年始
- 入館料: 無料
- 住所: 〒115 - 0042 東京都北区志茂5 - 41 - 1
- 問い合わせ: TEL03 - 3902 - 2271



▲3Fテラス 荒川流水模型



▲荒川知水資料館外観

川をもっと知るために

はくぶつ かん しりょう かん

博物館や資料館は新たな発見への入り口

博物館や資料館で、本物の生きものを観察したり、くわしい本や地図を見ることで、川と生きもの、くらしの関わりをもっと知ることができます。調べた情報を手がかりに、川で新たな発見をしてみ

ましょう。

資料館によっては、体験学習会や見学会を行っているところもあります。積極的に参加して、本物の川や自然、知恵にふれてみましょう。

●生きものや自然環境について調べる

名前	場所	問合せ電話番号
彩の国ふれあいの森・埼玉県森林科学館	秩父市中津川447	0494-56-0026
三峰ビジターセンター	秩父市三峰8-1	0494-23-1511
埼玉県県民の森	横瀬町大字芦ヶ久保字丸山北平896	0494-23-8340
埼玉県立自然の博物館	長瀬町長瀬1417-1	0494-66-0404
オオムラサキの森活動センター	嵐山町菅谷829-1	0493-62-8485
滑川町エコミュージアムセンター	滑川町福田763-4	0493-57-1902
さいたま水族館	羽生市三田ヶ谷751-1	048-565-1010
埼玉県環境科学国際センター	加須市上種足914	0480-73-8351
さいたま緑の森博物館	入間市宮寺889-1	04-2934-4396
埼玉県狭山丘陵いきものふれあいの里センター	所沢市荒幡782	04-2939-9412

●むかしのくらしについて調べる

名前	場所	問合せ電話番号
埼玉伝統工芸会館	小川町小川1220	0493-72-1220
埼玉県立嵐山史跡の博物館	嵐山町菅谷757	0493-62-5896
埼玉県埋蔵文化財調査事業団	熊谷市船木台4-4-1	0493-39-3955
埼玉県立さきたま史跡の博物館	行田市埼玉4834	048-559-1111
埼玉県立歴史と民俗の博物館	さいたま市大宮区高鼻町4-219	048-641-0890
水子貝塚公園(資料館)	富士見市大字水子2003-1	049-251-9686
鴻沼資料館(新田開発)	さいたま市桜区西堀4-1-4	048-878-5025
福岡河岸記念館(舟運)	ふじみ野市福岡3-4-2	049-269-4859

※市町村の博物館や歴史民俗資料館、郷土資料館でも、川や水、くらしに関する資料を見ることができます。

●ダムについて調べる

名前	場所	問合せ電話番号
浦山ダム資料館・うららびあ	秩父市荒川久那4041	0494-23-1431

＜ 上で紹介した施設のほかに、さまざまな資料館があります。いろいろな施設で川との関わりを調べてみましょう。 ＞

インターネットで荒川博士になろう！

いろいろな荒川情報が満載のホームページ

荒川のことをもっと知りたいと思ったら、インターネットでこのホームページにアクセスしてみましょう。荒川の歴史や、私たちにとって欠かすことのできな

い飲み水としての役割、水害から守るための取り組みなど、いろいろな荒川情報が満載。このホームページを見れば、荒川のすべてが分かります。

<http://www.ktr.mlit.go.jp/arajo/>



※ホームページは新しい内容に変わることがあります。

荒川上流部改修100年

荒川上流部の改修についてくわしくのっています。



アラキッズ

荒川のいろいろなふしぎやすがたをしらべられます。



あらかわどくほん

荒川読本

平成06年9月

初版

平成29年8月

改訂版



PDFデータはこちらから

共編 埼玉大学／立正大学名誉教授 元木靖

国土交通省 関東地方整備局 荒川上流河川事務所

発行 国土交通省 関東地方整備局 荒川上流河川事務所

埼玉県川越市新宿3-12 〒350-1124

T e l 049-246-6371 (代)

F a x 049-246-7282 (代)